



神奈川県

KANAGAWA

高等学校のための  
**カリキュラム・マネジメントによる  
学校改善ガイドブック**



平成19年3月

神奈川県立総合教育センター



## はじめに

このところ、高等学校教育をめぐる状況はめまぐるしく変化していると言えましょう。各都道府県では、高等学校改革が急速に進んでおります。神奈川県においても、平成 11 年 11 月に「活力と魅力ある県立高校を目指して『県立高校改革推進計画』」が発表され、現在は、県立高校改革推進計画後期実施計画の具体的取組に入っているところです。

このような高等学校教育の行政上の取組とともに注目されるのが、現行学習指導要領による教育課程基準の大綱化・弾力化です。この学習指導要領は、各高等学校にカリキュラムの創意工夫を求めています。今までのように、与えられた枠組みの中で教育課程を考える時代ではもはやなくなると言えましょう。また、教育関係諸法令の改正により、全校種の学校で「学校の自主性・自律性」が拡大され、各学校は特色ある学校運営が求められているところです。

高等学校は、小・中学校以上にカリキュラム面での創意工夫を求められていることは、学習指導要領の記載内容からも明らかです。このように柔軟なカリキュラム編成が求められ、同時に各学校の自主性・自律性の拡大により、学校の特色づくりが求められる学校運営環境に対応する手段の一つとしてカリキュラム・マネジメントの効果的な実施が有効であると指摘されています。

本ガイドブックでは、カリキュラム・マネジメントとは何かについて解説するとともに、実際に効果的なカリキュラム・マネジメントを行うことで、学校改善や特色づくりを行っている高校の取組の具体例を分かりやすく解説しています。理論だけでなく、実践例からカリキュラム・マネジメントの取組を理解していただけるような構成となっております。

是非、本ガイドブックを各高等学校の学校改善の一助として御活用ください。

平成 19 年 3 月

神奈川県立総合教育センター  
所 長 田 邊 克 彦

# 高等学校のためのカリキュラム・マネジメントによる学校改善ガイドブック

## 目 次

はじめに

目次

### 第一部 導入編

- 1 はじめに - カリキュラム・マネジメントは「学校改善」の有効な手段です . . . . . 1
- 2 大きく変化している高等学校の学校運営環境 . . . . . 2
- 3 神奈川県の新たな学校運営組織と職について - カリキュラム・マネジメントとの関わり . . . . . 5

### 第二部 理論編 . . . . . 8

- 1 本ガイドブックにおける重要用語の整理 . . . . . 8
- 2 カリキュラム・マネジメントとは何か? . . . . . 11
- 3 今、カリキュラム・マネジメントが求められている背景 . . . . . 13
- 4 第二部理論編のまとめ . . . . . 14

### 第三部 実践事例編 . . . . . 15

- 1 実践事例から学ぶカリキュラム・マネジメントの取組 . . . . . 15
- 実践事例 1 カリキュラム改革を基軸とした学校改善 (大井高校) . . . . . 18
- 実践事例 2 辛口カリキュラムでの自立指導 (上溝南高校) . . . . . 23
- 実践事例 3 新校再編を視野に入れた教育活動の総括と改善 (相模大野高校) . . . . . 28
- 実践事例 4 学系カリキュラムの開発と地域に開かれた学校経営 (足立新田高校) . . . . . 33
- 実践事例 5 学力向上を基軸としたカリキュラム・マネジメントの取組 (関高校) . . . . . 38
- 実践事例 6 課題把握による、走りながらのカリキュラム・マネジメント (筑波大坂戸高校) . . . . . 43
- 2 各実践事例から見るカリキュラム・マネジメントのポイント . . . . . 48

### 資料編 . . . . . 52

# 第一部 導入編

## 1 はじめに - カリキュラム・マネジメントは「学校改善」の有効な手段です

### (1) 本ガイドブックの目的

全国的な高校教育改革の流れ  
教育課程基準の大綱化・弾力化  
教育関連諸法令の改正による学校の自主性・自律性の拡大等による新たな学校運営環境  
以上の条件の下に

各校独自の創意工夫ある教育活動を行い、県民のみなさんの信頼に応える高校教育の具現化を目指した「学校改善」ための有効な手段である「カリキュラム・マネジメント」の具体的実践方法を分かりやすく紹介すること

### (2) 本ガイドブックの主な構成

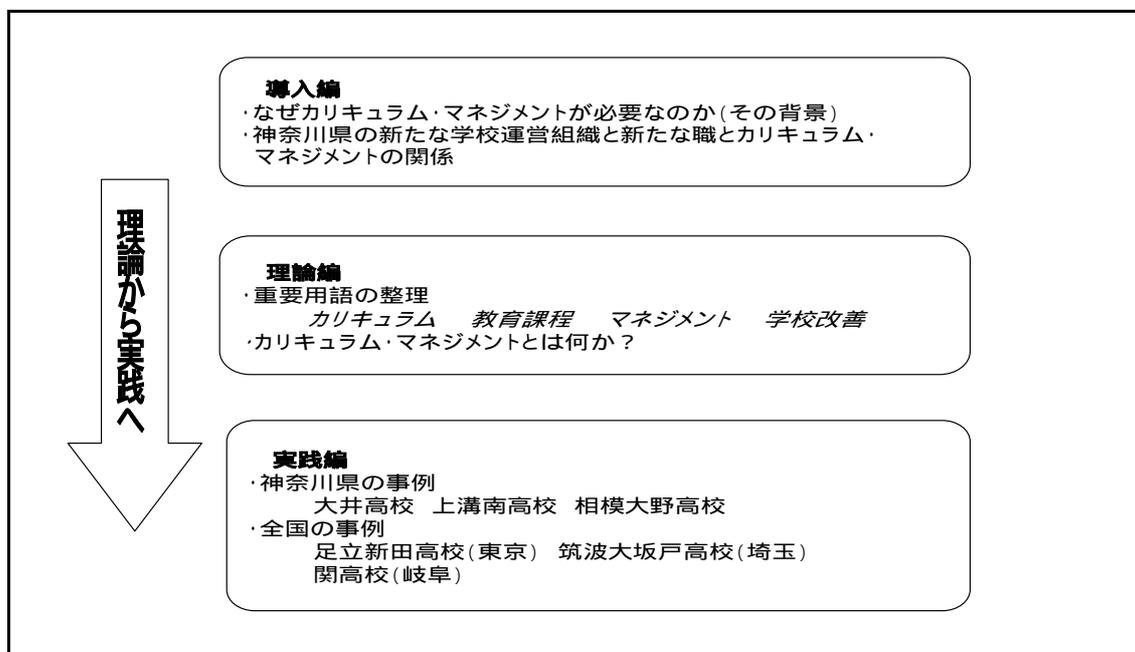


図 - 1 本ガイドブックの主な構成

実践編の後には、まとめとして、カリキュラム・マネジメント実践上のポイントについて、実践

事例から読み取ることができたことを簡潔にまとめてあります。各高校では、自校の教育目標、カリキュラム（教育内容、学校での生活活動全般）の再吟味、現在の学校運営課題の整理・分析を行い、どの手法が有効であるかを考察し、実際にカリキュラム・マネジメントによる学校改善に取り組んでいただきたいと思います。

巻末資料として、参考・引用文献一覧を掲載してありますので、各高校での実践の際に活用していただきたいと思います。

### （３）「学校改善」の有効手段 - カリキュラム・マネジメント

現在、高校教育を取り巻く状況が大きく変化していることは周知のとおりです。各高校は今までにはない「自主的・自律的な学校運営」を求められるようになっていきます。学校評価についても、今までのような内部評価だけでなく、外部評価も導入することにより、各学校の経営の状況が点検・評価される時代となりました。このことは、各高校がそれぞれの課題に学校組織全体を挙げての取組が必要になってきたことを意味します。各高校が「自校の課題は何か」を組織全体で考え、その解決に取り組むことは、まさに「学校改善」の営みそのものなのです。

学校改善の取組として、次のようなプロセスを考えることができます。まず、自校の課題が何であるかをとらえる必要があります。次に、その課題を解決し、学校改善を実行するためには、どのような手段を用いるのかを考え、実行することになります。そして、実行後、その成果を検証し、改善するという手順を踏みます。すなわち、課題を把握後に、**計画(Plan) 実行(Do) 点検・評価(Check) 改善(Action)のサイクルで行うこととなります（「P(計画) - D(実施) - S(評価)」とも言います。）**

カリキュラム・マネジメントは、学校の教育活動の核である「カリキュラム」（教育内容、学校での生活活動全般）を中心とし、それを支えている「学校環境」（人・物・財源・組織、運営）の二つの学校運営の主要な要素をどのように動かして学校改善を行っていくか、という営みです（カリキュラム・マネジメントについての理論面からの説明は第二部「理論編」で後述します。）つまり、カリキュラム・マネジメントを効果的に実施することは、学校改善の有効な手段であるというわけです。

## 2 大きく変化している高等学校の学校運営環境

### （１）高校教育改革の動向（概要）

神奈川県<sup>1</sup>を始めとした、各都道府県教育委員会によるさまざまな高校教育改革  
わが国の高校進学率は97%を超えた（本県97.2%<sup>2</sup>）ことによる生徒それぞれの個性、興味・  
関心の多様化  
進行する少子化と経済状況を始めする社会状況の大きな変化

このような社会状況の変化に的確に対応するため

神奈川県の対応 「活力と魅力ある県立高校をめざして『県立高校改革推進計画』」など。

*各高校の対応のポイント...*

**自校の現状や課題、すなわち、生徒の状況（学習状況や生活状況、将来の希望等）  
地域の状況を十分に把握するとともに、保護者や地域の方々の学校に対する要望を聞きながら、学校目標を具現するために、毎日の学校づくりを行うことが大切である。**

## （2）学校経営学からみた「学校運営（経営）環境の変化」

現在の学校経営学の研究では、ここ数年の学校運営（経営）環境の変化は各高校の学校運営に大きなインパクトを与えていることが論じられています。それらを簡潔に整理すると次のとおりです。

**改訂高等学校学習指導要領（平成11年告示、平成15年から学年進行で実施）による教育課程基準の「大綱化・弾力化」**

具体的には...選択制の大幅な拡大、「総合的な学習の時間」の導入によるカリキュラム開発の  
必要性、学校設定教科・科目の設置など

学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かし特色ある教育活動を展開する中で、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。

『高等学校学習指導要領』 第1章 総則 第1款 教育課程の一般方針（平成15年12月一部改正）

<sup>1</sup>例えば、平成11年11月に神奈川県教育委員会が発表した「活力と魅力ある県立高校をめざして『県立高校改革推進計画』」などを参照。

<sup>2</sup>平成18年度文部科学省学校基本調査、文部科学省ホームページ  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/001/06121219/001/010.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/06121219/001/010.pdf)（平成19.1.17取得）より。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正（平成 13 年公布、平成 14 年施行）や学校教育法施行規則等の改正による「学校の自主性・自律性の拡大」

具体的には...カリキュラム・マネジメント研究者の中留武昭（平成 17 年）によるとこの学校の自主性・自律性については「教育委員会からの、主としてカリキュラム、人事、財政などの権限委譲に基づいて、自らの組織的意思において主体的に運営されている特色ある学校」<sup>3</sup>と規定されている。

新しいタイプの高校の増加（例：単位制高校、総合学科高校、中高一貫教育校）、通学区を廃止し、高校選択の幅を広げたこと、など。

以上のような高校に関する学校運営環境の大きな変化は、各学校に対して、特色ある学校づくりの取組を行うことを今までにも増して求めていると言えます。では、高校の教職員は、特色ある学校づくりをどのようにして行えばよいのでしょうか。

### （3）「特色ある学校づくり」は自校の教育目標（学校教育目標）の具現化から

ここでは、各高校における「特色づくり」について考えてみましょう。「特色づくり」と聞いて、すぐに私たちの頭に浮かぶのは、例えば、特別な学校行事を組んだりするなど、今までになかった新規の取組を行うことかもしれません。しかし、一時的なイベントによる取組が、本当に学校の特色をつくることになるのでしょうか。学校評議員、地域の方々を始めとする学校外部の人たちにも明確な、一過性でない継続的な学校の特色がそのような取組で生まれるのでしょうか。もともと、学校の特色は、その学校の日々の教育活動（「教科指導」「生徒指導」「キャリア教育」等）を学校の教員全体が協働し、学校全体で組織的に取り組むことにより、入学した生徒を自校の教育目標が示す生徒に育て、送り出すという不断の営みを通して生まれるものです。つまり各学校のカリキュラムの実施、具体的には、各教科指導上の特色・工夫、その学校の「校風」、地域との関わり方、などが組み合わせられることで「学校の特色」になるのです<sup>4</sup>。

各高校には、その学校の求める学校像や、教育活動を通し、自校の生徒をどのような生徒に育てたいのかを表現した「教育目標」が定められています。各高校における「教育課程」は、この「教

<sup>3</sup> 中留武昭「研究の背景とねらい・方法」中留武昭編著『カリキュラム・マネジメントの定着過程』教育開発研究所、平成 17 年、p.4。

<sup>4</sup> このような「校風」や、その学校の教職員、生徒独自の雰囲気など「各学校の構成員に共通感情（意識）としてある“ものの見方”や“考え方”という“認識枠組み”」のことを中留武昭（平成 16 年）は「学校文化」と呼んでいる。中留武昭・田村知子『カリキュラムマネジメントが学校を変える』学事出版、平成 16 年、p.52。

育目標」を具現化するため、その学校が行う組織としての教育活動をどのように実施するかを表しています。言い換えると教育課程はその学校の教育内容を語っている「顔」であり「学校の魂」と言うことができます<sup>5</sup>。

つまり、「教育課程」を組織として統一的に実施する、具体的には、計画（Plan） - 実施（Do） - 点検・評価（Check） - 改善（Action）のマネジメント・サイクルを意識して日々の教育活動を行うことが、学校の特色づくりにつながると言えます。

次に、「教育課程」を効果的に実施するためには、校内の様々な要素を考慮する必要があります。まず、教育内容（端的には「授業」）そして、実際に教育活動を実施する教員（人）や建物、施設・設備、教材・教具等の物的条件を整備することを考える必要があります。この二つをつなぐ役割をしているのが「教育課程経営」であり、その発展した取組である「カリキュラム・マネジメント」というわけです<sup>6</sup>。

ここまでは、「カリキュラム」、「教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」、「教育課程経営」という本ガイドブックのキーワードについて、明確な定義づけをあえてしていませんでした。

その理由としては、「導入編」でまず伝えたかったのは、「教育目標を具現化することが学校の創意ある教育活動、すなわち、特色づくりにつながること」、「教育目標を具現化する手段として、『教育課程』の実施が必要であること」です。なお、「第二部理論編」では、本ガイドブックの中心概念であるこれらの用語の違いについて、「カリキュラム・マネジメント」を効果的に学校で実施していくための基礎知識として、教育経営学の研究成果を踏まえ、簡単に整理することにします。

### 3 神奈川県の新たな学校運営組織と職について - カリキュラム・マネジメントとの関わり -

#### (1) カリキュラム・マネジメントの実践は、教職員全員の迅速な対応から

前にも述べたようにカリキュラム・マネジメントは、各学校の教育目標の具現化を目指して行う学校改善のための営みであり、学校の特色づくりの核となるものです。カリキュラム・マネジメントを実践するためには、校長のリーダーシップの下、教職員が共通の目的意識を持って組織的に学校運営に当たる必要があります。ここでの「学校運営」とは管理職だけでなく、「学校の教員全員が学校運営に当たること」を意味します。

<sup>5</sup> 西穰司「教育課程経営の課題と展望」、北海道立教育研究所『北海道教育』平成8年、pp.38 - 43。

<sup>6</sup> 安彦忠彦によれば、「授業」は「教授・学習過程」、人、建物、施設・設備等を「経営・管理過程」と呼び、この二つを繋ぐ役割をしているのが「教育課程経営」であるという。安彦忠彦『教育課程編成論』放送大学教育振興会、平成14年、p.100。

そのためには、教員全員が日頃から自分の学校の目標や課題等を共有することが重要です。しかし、学校は今まで、学校全体の課題や学校目標の状況に応じた修正、カリキュラムの評価などについては、各学期末や年度末に1回だけ行っていたということが多いのではないのでしょうか。これでは、当該年度途中に生じた課題に迅速に対応し、学校全体で舵を切りなおすことは困難です。教職員の意見聴取、相互の意見交換の手段としては、従来から職員会議があります。しかし、教職員全員が集まる必要がある職員会議を頻繁に開催することは、学校の実情から考えると困難です。とは言っても、学校は日々の課題には速やかに対応していかなければなりません。それでは、迅速に全員（教員と職員）の意向を取りまとめた上で、校長のリーダーシップが発揮された学校経営が行われるためにはどのような仕組みが求められるのでしょうか。

### (2) 新たな学校運営組織と新たな職を生かしたカリキュラム・マネジメント

平成18年4月から神奈川県では、学校が、山積する課題に的確に対応していくためには、校長のリーダーシップの下、教員が一体となって、より組織的・機動的な学校運営体制を整備することが重要であるところから、新たな学校運営組織・教員の新たな職「総括教諭」と企画会議を設置しました<sup>6</sup>。そして従来細分化していた校務分掌・委員会を大きく「グループ」に再編・統合しました。このことで、従来、各分掌ごとに扱われ、分断していた情報が、大きいまとまりになったグループで、多くの成員に伝わりやすくなることが期待されます。

#### 企画会議

校長が主宰。

校長がつかさどる校務を補助するため、学校運営上の重要事項に関する企画立案等を行う。

#### 総括教諭

各グループリーダーの役割を担う。

校長の監督を受け、校長及び教頭の学校運営の補佐に関すること、グループの総括に関すること、教諭等の職務遂行能力の向上に関することを行う。

次に総括教諭の職務である「グループの総括」とは、グループ目標の設定、達成状況の取りまとめ等のグループ目標に関する職務やグループが担当する校務全体の職務に対する取りまとめや進行管理、複数のグループに関わる事項に関する企画会議等における調整等をいい、グループ職務の取りまとめや進行管理を行うために、総括するグループ員に対する指示、助言及び連絡調整等を行

<sup>6</sup> 詳しくは、神奈川県教育委員会「新たな学校運営組織・教員の新たな職について」(平成17年9月)を参照。

うものです。

カリキュラム・マネジメントを実践するには、学校課題をとらえ、カリキュラムの開発、見直し、設備などハード面について検討し、原案を作成するプロジェクトチームが必要です。そのために、毎回全員が集まらなければならない職員会議を開催するのは学校の日々の実情から考えると実際的ではありません。そういう点では、企画会議は、カリキュラム・マネジメントのデザインを考える組織として、最適です。

次表にあるようなメンバーから構成される企画会議は、その運用を効果的に行うことで、教職員の意見を迅速に集め、協議、決定することが可能です。このように考えると総括教諭のミドルリーダー、グループリーダーとしての職務は重要であるといえるでしょう。

表 - 1 学校の主な会議とその構成員（例）

会議の種類	会議の構成員
企画会議	校長、（副校長）教頭、事務長、総括教諭、その他校長が必要と認めた者
職員会議	全教職員
グループ会議	グループ所属の教職員

カリキュラム・マネジメントでは、P（計画）-D（実施）-C（点検・評価）-A（改善）のマネジメント・サイクルを確実に行うことで、カリキュラムの改善を図り、学校改善につなげていきます。ここで重要なのが、授業や特別活動など実施（Do）段階をすばやく点検・評価（Check）し、年度途中でも修正すべき点があれば修正活動（Action）することです。このような対応を行うための機動的組織として企画会議は大いなる可能性を持っています。

## 第二部 理論編

### 1 本ガイドブックにおける重要用語の整理

第二部では、本ガイドブックのキーワードである「カリキュラム・マネジメント」と関連する用語についてその意味を整理しておきたいと思います。ある特定の課題を論じるにあたっては、用語の意味の正確な理解は欠かすことができません。

#### (1)「カリキュラム」と「教育課程」の違い

私たちは普段学校で「カリキュラム」と「教育課程」という語を同じ意味で使っていることが多いのではないのでしょうか。しかし、厳密には両者には違いがあります。『現代学校教育大辞典』（安彦・新井他編、ぎょうせい、平成14年）を参考にして整理すると、その違いは、次のとおりです。

##### カリキュラム (Curriculum)

語源としてはラテン語の *cursum*(競争路)を意味している。今日の学校教育の社会的機能の多様化と教育研究の進展に対応して、日本語の「教育課程」以上の概念を表している。1974年のOECD・CERI(教育革新センター)の「カリキュラム開発に関する国際セミナー」ではカリキュラムを「教育目標、教育内容・教材・教授・学習活動及び評価の仕方までを含む広い概念と考えている。学校での「教育課程」の実施(「顕在的カリキュラム(overt or manifest curriculum)と学校生活によって身につける考え方、学校文化(「潜在的カリキュラム(hidden or latent curriculum)の二つを含めた「学習体験の総体」として捉えるのが「カリキュラム」である。

##### 教育課程

教育課程という語は、第二次世界大戦後の数年間は「学科課程」とか「教科課程」と呼ばれた。学校の教育活動は「教育課程表」の形で表されていることは周知のとおりである。安彦忠彦は、著書『教育課程編成論』(2002)のなかで「縦の欄に教科、道徳、特別活動が、横の欄に全学年が並べられ、その交差するところに年間ないし週間の授業時数が記入されている。その後、全教科、道徳、特別活動(年間行事等)などの年間指導計画の概要が明記されている。そのほかに1日の時程を示す日課表などもある。これら全体を教育課程と呼ぶのである」と教育課程を説明している。いわば教育課程は、教育活動の計画レベルを指すと考えられる。端的に言えば、「顕在的カリキュラム(overt or manifest curriculum)」を指すと考えてよい。

安彦・新井他編『現代学校教育大事典』平成14年、ぎょうせい、を参考に記述。

上に示した説明から、「カリキュラム」という語は、計画レベルを表す「教育課程」を包括する概念を表現する語であるということが分かります。すなわち、学校で日々営まれている授業や特別活動などの

計画レベルの教育活動（「教育課程」）と、教員・生徒が学校生活を通して体験することがらまでも包括する考え方であることが分かります。これは、学校における教員による教育活動だけでなく、生徒の「学び」の様子までも視野に入れているということが出来ます。本県の高校では、既に全高校で「生徒による授業評価」が実施されていますが、この取組も生徒の「学習の履歴」をとらえ、今後の授業改善に生かすという、まさに「カリキュラム」の発想を大切にした取組であると言えます。本研究では、計画レベルとしての「教育課程」とそれを受け止める生徒の「学びと学校生活」を「カリキュラム」ととらえることにします。

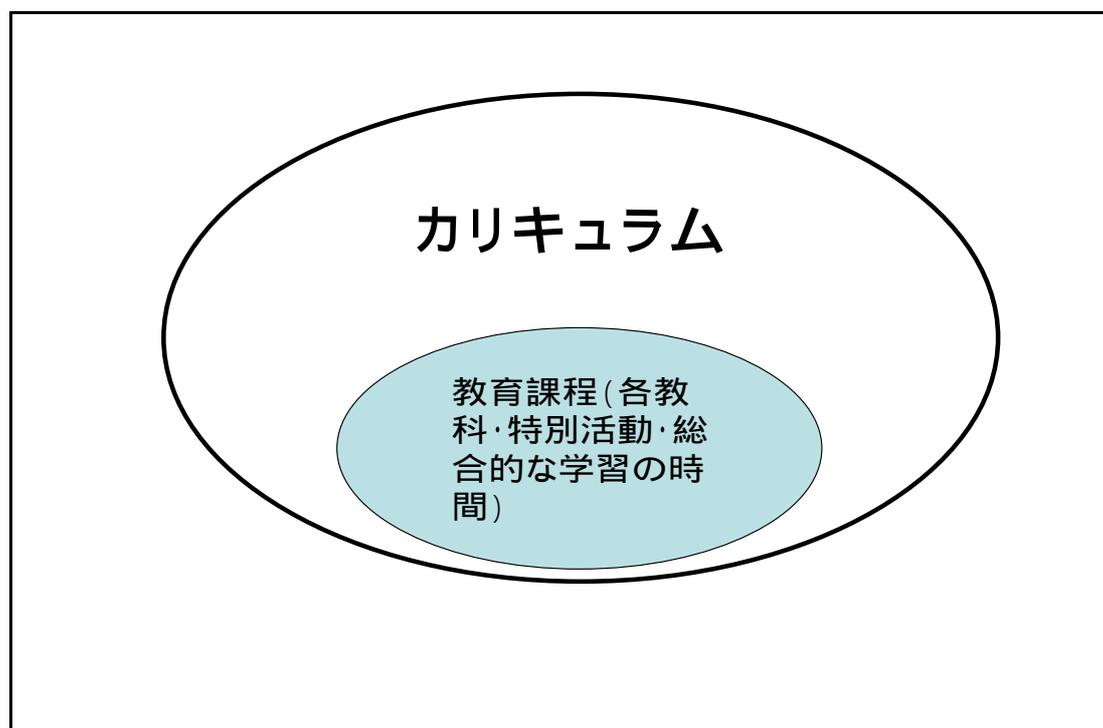


図 - 2 カリキュラムと教育課程

## (2)「マネジメント (management)」とは

マネジメント (management) とは、英和辞典 (小西友七、南出康世編集主幹『ジーニアス英和大辞典』大修館書店、平成 13 年) によると、次のように定義されています。

**management**

- 1 (事業・金などの) **管理・経営**; 取扱い、操縦
  - 2 (人などに対する) 管理[操縦]手腕; 処理能力; 術策; (時間・物の) 上手なやりくり
  - 3 (特定の会社・施設の) 経営[管理]者(たち); [通例 the ~; 集合的に; 単数・複数扱い]  
(労働者に対して) 経営陣、資本家側
- 小西友七、南出康世編集主幹『ジーニアス英和大辞典』大修館書店、平成13年、より。

本ガイドブックは、高校の学校改善のためのカリキュラム・マネジメントについてを取り扱っていますので、上述の三つの定義の中では、「管理者」に関してではなく、「管理」「経営」という行為それ自体を指すことが適切であると考えられます。

では、教育経営学の分野では、「マネジメント(「管理・経営」)」について、どのように定義しているか見てみましょう。『現代学校教育大事典』(安彦・新井他編、ぎょうせい、平成14年)で、小泉祥一は、「経営管理活動とは、単位学校において学校目標の達成を目指した教育課程を編成、実施、評価するために必要な、人、物、財及び教育技術的・組織運営的条件の整備活動の一連の過程を組織し、実行する創造的、技術的営みである」と説明しています<sup>7</sup>。そして、マネジメント(経営・管理)は、「マネジメントサイクル」、すなわち、計画(Plan) - 実施(Do) - 評価(See)(これを「P-D-Sサイクル」と言います。)の三つの過程から構成されます(なお、このP-D-Sサイクルについては、最近では、Sの部分を見分化して、Plan - Do - Check - Action、などがありますが、実質的な考え方は同じであると言えます。)。このマネジメントサイクルは、実際の学校教育活動においては、P、D、S(P、D、C、A)が独立して行われるものではありません。一連の統一的な営みと考えることが大切です。

### (3)「学校改善」とは

学校改善とは、文字どおり「学校を改善すること、良くすること」ですが、カリキュラム・マネジメントのガイドブックという本書の趣旨に鑑み、もう少し学校経営学の観点から詳しく検討してみましょう。中留武昭は「学校改善」について、次のように定義しています。すなわち、「各学校が子どもの行動変容に対応した教育ビジョンを共有化し、これを達成するために、学内・外の支援を得ながらも、なお、固有の自律的な社会的組織体として、学校のウチとソトとの間に開かれた協働文化を形成することによ

<sup>7</sup>小泉祥一「教育課程経営」安彦・新井他編『現代学校教育大事典』ぎょうせい、平成14年。

って、自己改善を継続的に遂行していく経営活動である」と<sup>8</sup>。この定義を具体的に学校運営活動の点から次のように考えて見ましょう。つまり、各学校の生徒の状況把握（学力、学校生活、地域と学校との関わり方等）を行い、自校の教育目標が目指す生徒像、学校像にさらに近づけるには、どうすれば良いかを教職員全員で考え、組織として共通認識を持つこと、その具体的実施方策としての日々の教育活動を学校内と学校外（地域の方々、保護者、研究者等）と協働して行う（「開かれた学校」）とを継続的に行うことで、学校の教育効果が向上し、学校が改善される、というように考えることができます。

## 2 カリキュラム・マネジメントとは何か？

（１）の重要用語の整理の項では、キーワードについて簡単に整理をしました。本節では、いよいよ「カリキュラム・マネジメント」という本ガイドブックの最重要語についての理解を深めることにしましょう。始めに、最新の教育経営学の研究成果を基に検討し、次に本研究における「カリキュラム・マネジメント」の概念について、提示します。

### （１）「カリキュラム・マネジメント」の定義

カリキュラム・マネジメントはここ数年、教育経営学の中で学校改善の有効な手法として、教育委員会や研究者から注目されている手法です。**本ガイドブックの目的は、各高校の学校改善を目指し、カリキュラム・マネジメントを実施する上の具体的手法を分かりやすく示すことです。**そのためには、まず、「カリキュラム・マネジメントとは具体的にどのようなことなのか？」について理解しておくことが必要です。本節では「カリキュラム・マネジメントとは何か？」について理解を深めることとします。

カリキュラム・マネジメントについて、今まで、教育経営学やカリキュラム学の研究者によって定義付けがなされていますので、それらのうちの代表的なものを次に見てみることにしましょう。

「各学校が教育目標達成のために、児童・生徒の発達に即した教育内容を諸条件とのかかわりにおいてとらえ直し、これを組織し、動態化することによって一定の教育効果を生み出す経営活動である。」  
中留武昭・田村知子『カリキュラムマネジメントが学校を変える』学事出版、平成16年、p.11、より

<sup>8</sup> 中留武昭「学校改善」安彦・新井他編『現代学校教育大事典』ぎょうせい、平成14年。

## 高等学校のためのカリキュラム・マネジメントによる学校改善ガイドブック

「教育課程経営はこれまで行政的な視点に偏ってきたので、これをダイナミックなマネジメントの視点に転換させる必要がある。カリキュラムの原義に立ち返ってみれば、教育課程を構成する諸要素は一つの全体として扱うべきである。カリキュラムは、教育課程を全体的に見渡す「組織の思想」であり、また卒業時の「出口の管理」を重視する教育の思想である。教育課程経営からカリキュラムマネジメントへの転換は、具体的には『PDS から SPD へ』の転換に象徴される。カリキュラムの現状を点検するためには、まずカリキュラムのもっている多層性に気づくことである。教育課程を評価する上での困難点は、『観察』を基本としたアセスメントによって克服される。こうしたカリキュラムの視点は、そのマネジメントを構想するための戦略的な起点をなす。」

田中統治「特色あるカリキュラムマネジメントの展開」児島邦宏・天笠茂編『柔軟なカリキュラムの経営 - 学校の創意工夫』ぎょうせい、平成 13 年、p.41、より。

「『教育課程規準の大綱化・弾力化』と『学校の自主性・自律性』との接点を前提にして、教育活動の内容、方法とそれを支える条件整備との対応関係を学校文化の存在を媒介にして、動態化させていく学校改善の営みである。」

田村知子「カリキュラムマネジメントの構造化とカリキュラム文化」日本カリキュラム学会第 15 回大会課題研究「カリキュラム経営と教師の力量形成」(平成 16 年 7 月 3 日愛知教育大)より。

本ガイドブックでは、以上の研究の成果や要点を踏まえ、「カリキュラム・マネジメント」を次のように定義します。

「『教育課程基準の大綱化・弾力化』と『学校の自主性・自律性の拡大』がワンセットになったことによる新たな高等学校運営環境の下、各高校が自校の教育目標を具現化するために、生徒の発達状況を十分に踏まえ、教育内容と条件整備を一体化し、動態化させる学校改善のための営みである。」

### (2)「カリキュラム・マネジメント」実施の留意点

以上の研究面と本ガイドブックのカリキュラム・マネジメントの定義を基にして、高等学校におけるカリキュラム・マネジメント実践の要点を簡潔に整理すると次のようになります。

### 高等学校におけるカリキュラム・マネジメント実施の留意点

各学校の教育目標を具現するための方法である。

学校における教育活動を「教育課程」のレベルだけでなく、学校文化のレベルからもとらえる。

学校の教育活動を教職員が一体となった組織として行うことを意識する。

マネジメントサイクルをSPD(すなわち、「評価」の重視)の発想で展開させる。具体的には、各学校の現状・課題把握からスタートする。

教育課程規準の「大綱化・弾力化」(つまり、各高校による創意工夫したカリキュラム開発)と学校の「自主性・自律性」(言い換えると、「学校裁量権」)の拡大という、新たな学校運営環境に対応した学校経営の考え方である。

## 3 今、カリキュラム・マネジメントが求められている背景 - 従来の「教育課程経営」と「カリキュラム・マネジメント」との違い -

従来から、教育目標の具現化を目指した経営手法として「教育課程経営」があり、「教育課程」をP-D-Sのマネジメントサイクルで、統一的に営むという考え方が主張されています。カリキュラム・マネジメントは、基本的には、この教育課程経営を踏まえ、新たな学校運営環境を加味した考え方ですが、中留武昭(2005)はこのことを「教育課程経営の延長線上にある」と表現しています<sup>9</sup>。それについては、具体的に言うと次のようになります。すなわち、「総合的な学習の時間」や「教科・科目の選択幅の拡大」を特徴とする学習指導要領(高校は、平成11年告示、平成15年度から学年進行で実施)による教育課程の大綱化・弾力化により、各学校におけるカリキュラム開発が求められるようになったこと(SBCD:School Based Curriculum Developmentの考え方)、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正を始めとする諸法令の改正による学校裁量権の拡大とそれに対する担保としての説明責任(アカウントビリティ:accountability)や、学校内部評価の努力義務が定められる<sup>10</sup>、など、各高校は今までにはない学校運営環境の変化に対応することが求められていることです。

<sup>9</sup> 中留武昭「カリキュラム・マネジメントによる学校改善」田中統治『確かな学力を育てるカリキュラム・マネジメント』教育開発研究所、平成17年、pp.51-53。

<sup>10</sup> 高等学校設置基準第4条の1「高等学校は、その教育水準の向上を図り、当該高等学校の目的を実現するため、当該高等学校の教育活動その他学校運営の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする」

## 4 第二部理論編のまとめ

上に述べたような、新たな学校運営環境に対応した考え方に基づいた学校改善の手法として、カリキュラム・マネジメントを各高校の学校運営に取り入れることにより、学習指導要領に示されている「創意工夫を生かし特色ある教育活動を展開する中で、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実」が可能となるのではないのでしょうか。

これから、第三部の実践事例編では上述の概念に基づいて、神奈川県内、全国の高校の特徴的な実践事例を分析・整理し、カリキュラム・マネジメントを学校改善のための有効な手段として各高校の学校運営に生かすことができる具体的方策を提示していきたいと思います。

## 第三部 実践事例編

### 1 実践事例から学ぶカリキュラム・マネジメントの取組

第三部「実践事例編」の内容は次のとおりです。

カリキュラムを工夫しつつ、学校運営に取り組み、学校改善を行っている高校の事例を具体的に検証することを通して、カリキュラム・マネジメントによる学校改善のポイントを感じ取る。

実践事例に見られるポイントの中で、取り入れることができる取組があれば、学校運営に導入し、さらなる学校改善を図って、生徒たちの学校生活をより豊かなものにするようにする。

#### (1) 第三部 実践事例編の構成

##### 1 実践事例から学ぶカリキュラム・マネジメントの取組

##### 2 神奈川県立高校の実践事例

##### 3 全国の高校の実践事例

##### 4 実践事例からみたカリキュラム・マネジメントのポイント

この実践事例編では、神奈川県の事例として、神奈川県立大井高等学校（以下「大井高校」という。）神奈川県立上溝南高等学校（以下「上溝南高校」という。）神奈川県立相模大野高等学校（以下「相模大野高校」という。）の三校を、全国の事例として、東京都立足立新田高等学校（以下「足立新田高校」という。）岐阜県立関高等学校（以下「関高校」という。）筑波大学附属坂戸高等学校（以下「筑波大坂戸高校」という。）の三校を取り上げています。ここに取り上げた六校は、それぞれのカリキュラム、そこで学んでいる生徒、学科等バラエティに富んでいます。このような多

様な高校の事例を取り上げることで、カリキュラム・マネジメントの様々な取組の具体例を見ていただきたいと考えています。

また、各高校の事例については、概ね5～6ページ程度にまとめて、第三部の実践事例のページからでも読み始めることができるように構成してあります。なお、各高等学校のカリキュラム表など、その他の関連資料等は巻末の「資料編」に一括して提示してあります。

## (2) 実践事例校選定の理由 - 県立高校の事例

本ガイドブックでは、三つの県立高校のカリキュラム・マネジメント実践事例を紹介しています。ここでは、簡単に大井高校、上溝南高校、相模大野高校をなぜ取り上げたのか、その理由について記述しておきます。

始めに、大井高校については、カリキュラムの再編、入学者選抜方法の見直し等、組織的な学校改革を行うことで、学校の抱える課題を地道に解決していったことが挙げられます。次に上溝南高校については、90分授業の導入と柔軟なカリキュラム編成によるカリキュラム・マネジメントの実施により、学力向上と部活動を始めとする課外活動の充実を教職員全体の協働により目指したことが特徴です。三校目の相模大野高校は、間近に控えた中等教育学校への再編を控え、今までの教育活動を総括し、改善を目指した取組をしていることが特徴です。

以上のような三校それぞれの異なった特徴あるカリキュラム・マネジメントの取組を取り上げることで、各高校がカリキュラム・マネジメントを行う上の何らかのヒントが得られることと考えます。

## (3) 実践事例校選定の理由 - 全国の実例

次に全国の実例ですが、ここでは、普通科高校だけでなく、総合学科高校の取組も取り上げました。県立高校の事例と同様に、それぞれの学校の背景や取組も異なっています。多様なカリキュラム・マネジメントの取組の実際を知っていただくことで、学校改善のためのヒントを得ることができるようにしてあります。次に簡単に足立新田高校、関高校、筑波大坂戸高校を取り上げた理由を記述します。

はじめに、足立新田高校ですが、課題の多かった同校をカリキュラム再編、入試改善と授業改善を柱とする学校改革によって、学校をよみがえらせた事例としてよく知られています。詳細につい

## 高等学校のためのカリキュラム・マネジメントによる学校改善ガイドブック

では事例のページに譲りますが、このカリキュラム再編の取組により、中退者が大きく減少しました。また、組織的に学校改善に取り組むきっかけを作った校長のリーダーシップも同校のカリキュラム・マネジメントの大きな特徴と言えます。

次に関高校は、学力向上フロンティアハイスクールの指定をきっかけとして、学力向上の取組を積極的に行いました。特に生徒に最低限分かってほしいことをまとめた「関高学力スタンダード」の作成、習熟度別学級編成、土曜講座、朝学習などの学校を挙げての学力向上の取組、それに伴って生徒の80%が学校生活に満足していることなどが同校の取組の特徴と言えます。

筑波大坂戸高校は、総合学科高校の草分けとして有名な学校ですが、本ガイドブックでは、同校が総合学科高校のパイオニアであるという点ではなく、課題が多かった専門学科高校をカリキュラム改編により総合学科に変えた取組そのものと、総合学科高校に改編されてからも、常にカリキュラム改編を中心とした学校改善に取り組んだことを同校の特徴として取り上げています。

以上、事例として取り上げた三校は、学校がある地域や学科など学校の状況もそれぞれ異なります。このような多様なカリキュラム・マネジメントの実践事例から、学校改善のヒントを得ることができるでしょう。

それでは、次ページ以降では、県立高校、全国の実践事例の順でカリキュラム・マネジメントが学校改善にどのように機能したのか、について見ていきましょう。

**(実践事例1) カリキュラム改革を基軸とした学校改善**  
- 神奈川県立大井高等学校のカリキュラム・マネジメント実践事例 -

**1 大井学校のカリキュラム・マネジメントのポイント**

大井高校のカリキュラム・マネジメントのポイントは次のとおりである。

**教育課程の再編、入学者選抜方法の見直しを中心とした組織的な学校改革を行った。**  
**生徒のニーズや質の変化、学校を取り巻く状況の変化にカリキュラムを対応させた。**  
**教員研修、グランドデザインの作成などによる教員の意識共有化への取組を行った。**

**2 大井高校のカリキュラム・マネジメントの実践事例**

**はじめに - 大井高校概要**

昭和58年、大井高校は、地元の大井町を始め、県西地域の期待を受け、普通科6学級規模(240名)で設置された。生徒急増期には大規模校(各学年12学級約1700人)となり、校内の諸活動が活発だった。(創設期)

しかし、平成8~10年の生徒減少期には、注目される活動が減少し、平成11、12年の入学者選抜で定員割れとなった。この頃から、目的意識を持ってないまま学校生活を送る生徒が増加し、転退学者が入学者の3分の1という状況になった。入学者選抜では定員割れやこれに近い状況が数年続いた。(停滞期)そこで、同校では目的意識を持った生徒に入学して欲しいと考え、学校改革が始まった。平成13年度の入学者選抜では推薦入学制度を導入した。(模索期)

推薦入学の生徒を中心に授業態度が改善し始めた。次第に学校内が落ち着き、地域との連携も構築できるようになった。平成14年、学校の特色を明確にし、目的を持った生徒の期待に応えるため、福祉科を設置し、中学生のニーズをとらえた。福祉や部活動で、目的意識を持った生徒が多数入学し、入学者選抜でも定員を十分確保し、転退学者数も減少した。(変革期)

平成15~17年度文部科学省「学力向上フロンティアハイスクール」研究指定、平成17~19年度「キャリア教育実践推進モデル校」で、確かな学力向上と個々の生徒の進路実現を新たな目標とし、研究を重ね、現在に至っている。(学力向上研究期)

**(1) 入学者選抜の見直し**

⇨ **カリキュラム・マネジメントのポイント**

平成11年頃、高校での学習や生活に目的意識を持ってない生徒が増加した。学校に目が向かず、入学者

の3分の1近くが進路変更する状況になった。そこで、生徒の目的意識を重視し、平成13年度より推薦入学制度が普通科にも適用されることになったことを受けて、部活動や生徒会活動、新設した福祉科目の学習に意欲を示す生徒を入学させる仕組みをつくった。中学校訪問を実施し、この取組を積極的に伝えた。平成13年度以降は一定程度目的意識を持った生徒が入学するようになった。

推薦で入学した生徒が他の生徒に好影響を与え、授業離脱や反社会的行動が次第に減少し、落ち着いた学校生活が見られるようになった。このようにして次第に学校内が落ち着き、地域との連携も構築できるようになった。

## (2) カリキュラムの見直し

### □>カリキュラム・マネジメントのポイント

#### 特色ある選択科目の設定・・・多彩な選択科目の開設

生徒の目的意識を大切に、学習意欲を向上させるためには、生徒の興味・関心や個性・適性に配慮した科目や枠組みが必要となり、特色ある選択科目の設定が考案された。大井高校では、平成11年3月告示の新学習指導要領を受け、多彩な選択科目設定とカリキュラム整備を打ち出し、各教科2科目以上を目標に新科目の設定を行った。さらに、平成14年度には生徒の進路実現を目指し、学校設定教科・科目として福祉科目を設定した。ここでは、特別養護老人ホームに隣接するという地理的条件を有効活用した。平成15年、福祉科目は1学年生徒約70名(約30%)が選択し、その後も福祉選択希望者は増加し、平成18年度は1学年生徒144名(約62%)が選択し、学習者のニーズをとらえたと言える。この間も多彩な選択科目と福祉科目の拡充が続いた。特筆すべきは、地域の看護学院との交流講座「看護と福祉」で、地域の医師や看護師による授業を実施している。生徒は看護学院の授業を受け、学校外活動で単位認定される。この交流システムでは、看護学院の生徒を対象に大井高校教員が授業を行い、高校と上級学校のカリキュラム接続を視野に入れた研究も行なっている。大井高校ではこの連携を基軸として、幼稚園、保育園、小・中学校との連携にも取り組んでいる。その他、多くの外部教育機関の講師の授業を開設し、外部の教育機関とカリキュラム連携に取り組んでいる。

#### 指導形態の見直し・・・習熟度別学級編成の導入

文部科学省は平成14年1月に「確かな学力向上のための2002アピール『学びのすすめ』」を打ち出した。これに合わせ、同校は同年の4月、習熟度別学級編成を導入し、学力向上への取組とした。平成14年度は、標準クラスと発展クラスによるホームルームクラス固定編成だった。しかし、生徒個々によって得意不得意があり、クラス選択で迷う生徒が増えた。また、教員の指導も生徒観等、クラスにより差異が生じ、指導上の課題が生じた。この状況を改善するため、平成16年度以降は国語、数学、外国語、物理、福祉の科目別のレッスンクラス編成に変更した。クラス分けについては、生徒の希望と学習状況を総合的に判断した。この指導形態の結果については現在検証中である。

この習熟度別学級編成導入の平成15年度にカリキュラム改定を行った。生徒に充実した授業内容を提示したいという教員からの要望により2単位科目を減らし、代わりに3～4単位の単位数の多い科目を中心に配置した。これら指導形態と枠組みの改善で、確かな学力向上のためのカリキュラムを生徒に提

供した。

「総合的な学習の時間」の導入・・・学習内容の一体化

平成 14 年頃、地域の方々や保護者からフリーター・ニート問題や、転職・離職の問題への対応の要望が強くなった。大井高校では「総合的な学習の時間」の導入にあたり、学習指導要領の「自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動」に着目し、学習テーマを進路探究学習(キャリア教育)とした。これにより、同校の学習の柱が一体化した。すなわち、平成 15 年度は、校内から「カリキュラムバブル」「ショッピングモールカリキュラム」と多彩な科目設定が疑問視されたのと同時に「確かな学力向上」「ゆとり」「生きる力」など本校の柱はどれなのか整備して欲しいという声が出ていた。進路探究学習が設定されることにより、生徒は将来の自分の姿を意識し学習意欲を高め、これに必要な科目選択や学習をしていけば良いことになり、カリキュラムに対する考え方が整理され、分かりやすくなった。

### (3) 教員研修の充実

#### ⇨カリキュラム・マネジメントのポイント

大井高校は、平成 15～17 年度文部科学省「学力向上フロンティアハイスクール」研究指定における研究活動に当たり、教員の意識改革が重要であると考え、研究計画の上位に教員の研修を位置付け、校内研修を充実させた。すなわち、講演会、情報交換会、研究開発学校への視察など年間約 10 回、3 年間で約 30 回研修を実施した。教員間で情報と課題を共有し、学校改革の当事者意識も高まった。研究開発学校への視察などは、実践への大きなヒントになった。組織的に研究に取り組むためには、校内研修は重要といえる。

### (4) シラバスの工夫

#### ⇨カリキュラム・マネジメントのポイント

これらカリキュラム再編を効果的に広報活動等で示す方法が必要になった。そこでシラバス冊子の前部分に、同校の全ての教育活動を簡潔に説明するために作成した学校のグランドデザインを掲載した(資料編 53 ページに掲載)。グランドデザインは、生徒や保護者、地域の方々の願いや期待を踏まえ、目指す学校像やはぐくみたい生徒像を示し、その実現を図るため、学校全体の中でどのような課題と方策を考え、組織的に取り組んでいるかを示した「基本構造」にした。教育目標、校訓、学校目標、目指す学校像、求める生徒像、主な教育活動とその実態などを語句・文章化して並べ、できる限り簡潔なデザインにした。この図で示されるカリキュラム表も工夫をした。縦横の枠組みを設けマトリックス構造とし、同校は「マトリックスカリキュラム」と名付けた(資料編 54 ページに掲載)。縦軸は各科目の設置意図をキーワードで表現し分類した。横軸は科目の難易度をベーシック、スタンダード、フロンティアの 3 段階として示し、設定を学年進行と一致させた。

このグランドデザインには、学校業務が一枚の図に示されているので、生徒へのガイダンスや教員の課題の共有化など多方面に活用することができる。上位の計画を整理することにより下位の計画の濁りが取れるイメージであった。カリキュラム・マネジメントにグランドデザインを用いたことは、校内指

導体制を整備し、業務を円滑に推進させることにつながった。生徒・保護者への説明責任、教職員間の共通理解、学校評価システムなど全てに活用可能となることを示し、開かれた学校づくりや学校評価に対応しやすくなると考えられる。この時期、学校が落ち着きを取り戻し、地域社会を担う人材を育成するという課題が見えてきた。今後はこの課題を反映し、教育活動の数値的目標と達成の度合いを表記したグランドデザインを新たに開発し、マネジメントしていくことが課題となる。特に学力向上は生徒・保護者双方の関心の高い内容で、学力向上の物差しも含め、今後も研究する必要があると言える。

### 3 まとめ

取組の年度が進むに従い、落ち着いた学校運営ができていることから、大井高校ではカリキュラム・マネジメントは効果を上げ、学校全体が活性化されたと見ることができる。その特色をまとめると次のようになる。カリキュラム改革を根幹にしていること、学校の全ての在り方、すなわち、教科指導、生徒指導、進路指導等を一体化して組織的に取り組んだこと、教員研修を重視していること、地域の教育機関と連携をしていること、国や県の研究指定を前向きにとらえたこと、である。

この大井高校の取組では、神奈川県の高校教育改革の流れの「柔軟な学びのシステムの実現」、「地域や社会に開かれた高校教育の推進」、「教職員の意識改革と資質の向上」がカリキュラム・マネジメントという手段を通して実践されている。

日常の教育活動を見直し、その一つ一つに学校が一体となって取り組み、教育の質的充実を図っているため、改革過程で見出した課題も具体的であり、今後の取り組む方向が明確である。魅力ある学校は劇的改革からではなく、目指す生徒像を明確にし、日々の教育活動を点検し、その一つ一つに真摯に取り組むことから始まる。さらに教員の意識改革も重要で、教員研修はその契機になる。

大井高校は、研究発表等の実施で、参考事例として評価されていると同時に、外部の教育関係者からは、「普通科の一つの方向性を示唆している」「福祉学科を設置している学校から見ると、この福祉は中途半端ではないか」「先生方の負担が増していつかパンクするように見える」「総合的な学習の時間の内容がよく見えず、あれもこれもになっていないか」「総合学科(単位制)にすると人的、カリキュラム的問題が整理でき飛躍的に伸びるのではないか」等の意見が寄せられている。平成18年度には、神奈川県では、県立学校の学区撤廃と地域高等学校の再編があった。これにより、この地域の学校の位置付けは再編成されるが、これに対する対応が同校の現在の大きな課題となっている。

### 4 大井高校概要

(1) 校名：神奈川県立大井高等学校

ホームページアドレス <http://www.oi-h.pen-kanagawa.ed.jp/>

(2) 所在地：神奈川県足柄上郡大井町西大井 984-1

## 高等学校のためのカリキュラム・マネジメントによる学校改善ガイドブック

(3) 課程・学科：全日制普通科

(4) 教職員数（常勤のみ）

校長	教頭	教諭	養護教諭	実習助手	事務	技術職員	事務員	用務員
1	1	36	1	3	3	1	2	2

(5) 生徒数 6クラス規模 17学級 男子 253、女子 368、計 621 名

(6) 沿革

- ・昭和 58 年開校
- ・平成 15 年 11 月 創立 20 周年記念式典挙行

(7) 教育目標

円滑な人格の完成を目指し、豊かな情操と調和のとれた人間の育成

### <参考・引用文献>

神奈川県立大井高等学校 平成 17 年 フロンティアハイスクール研究紀要

神奈川県立大井高等学校 平成 18 年 学校要覧

## (実践事例2) 辛口カリキュラムでの自立指導

- 神奈川県立上溝南高等学校のカリキュラム・マネジメント実践事例 -

### 1 上溝南高校のカリキュラム・マネジメントのポイント

上溝南高校のカリキュラム・マネジメントのポイントは次のとおりである。

学力向上を目指すとともに部活動を始めとする課外活動にも重点を置く、言わば二兎を追う学校づくりを教員全体で目指した。

生徒が個々の進路を自主的に考えることを育成するための、柔軟性を持たせた教育課程作成を目指した。

新たな取組に伴う授業改善を常に課題として念頭に置き、課題に関しては迅速に対応した。

### 2 上溝南高校のカリキュラム・マネジメントの実践事例

#### (1) 全ての欲求を満たすために - 新たな取組を支える上南精神(かみなんスピリッツ) -

上溝南高校は、創立30周年を迎えた普通科高校である。生徒の90%以上は進学を希望する進学校であるが、一方で、伝統的に運動部を始めとする部活動が盛んな学校である。学校案内には次のようなキャッチフレーズが記されている。

「楽しくなければ学校じゃない 勉強しなくちゃ高校じゃない」

このような勉強と課外活動(部活動)の両立を目指す上溝南高校は、新教育課程の導入によって、時間の効率的活用という大きな課題を突き付けられた。ただ、そこで力を見せたのが生徒と教員が一緒になって何事にも真剣に取り組む「上南精神」だった。そして上溝南高校では大きく二つの教育課程の変革を行った。

#### (2) 辛口の取組その1 - 90分授業の導入

##### ⇒ カリキュラム・マネジメントのポイント

##### 基本理念

進学希望者に対応した授業を展開するため、週当たりの授業コマ数を減らさない。

その一方で、部活動を始めとする課外活動をする時間を確保する。

## 高等学校のためのカリキュラム・マネジメントによる学校改善ガイドブック

上記の基本理念を踏まえ、平成 14 年度より 90 分授業を導入する。

(午前に 90 分を 2 コマ、午後は 90 分 + 50 分という時程)

### 導入理由

90 分授業を 2 単位分とすると、1 日 7 コマ分、週当たり 35 コマ分の授業時間が確保できる。  
50 分授業を 7 時間実施するよりも終業時間を早くすることができ(実際には 15 時 20 分終業)、  
部活動等の課外活動の時間を確保することができる。

### 実施状況

・実施当初は教員・生徒ともかなりの戸惑いがあったようである。しかし一旦導入したこの形をなんとか生徒の学力向上にいかせるよう、教員同士で 90 分という時間を生かした授業内容の意見交換や教材の作成などを頻繁に行うようになった。

一方、生徒は思いの外順応が早く、実施初年度のアンケートを見ると、「90 分授業には慣れましたか。」という質問に対して各学年とも 80%の生徒が「はい」と記した。生徒の若さ、柔軟性が表れている回答内容であると言える。

### 評価

90 分授業に関する教員・生徒を対象にしたアンケートには様々な意見が寄せられた。

・教員からは「作業させたり話し合いさせたりする時間がゆったり持てる」「教材研究や教員同士の意見交換についてこれまでより時間をとるようになった」という意見から、「90 分間生徒の集中力を持続させるのは難しい」「行事等で一旦授業がつぶれると間が空いてしまう」「授業変更が困難」などの今後の課題となる意見まで寄せられた。

・生徒からは「1 日の科目数が少なくても良い」「内容に充実感がある」「大学の授業に今から慣れることができる」という意見や「疲れる、つらい」「授業の間が空いて忘れる」「授業についていけなくなる」などの意見があった。

### 成果と今後の課題

・90 分授業を実際に行ってきた、慣れてくるに従って生徒に集中力がついてきていることが実感できた。また、教える側も教材や授業内容に関して様々な工夫を施し、実技教科以外でも単なる講義形式だけではなく、考えさせる授業、生徒が実際に作業をする授業が多く展開され、生徒の自ら学ぶ姿勢を養うことができた。

・一方で授業の持続性を保てないという声もある。

・さらに次のようなデータもある。(平成 16 年度 全校生徒対象のアンケートによる)

Q. 次の教科に関して、90 分授業と 50 分授業ではどちらが効果的だと思いますか？

\*座学中心の 5 科目(国・社・数・理・英)

90 分が効果的	45%	50 分が効果的	32%
----------	-----	----------	-----

\*実技中心の 3 科目(体・芸・家)

90 分が効果的	76%	50 分が効果的	12%
----------	-----	----------	-----

まだまだ教える側が90分授業を十分に生かしていないことが伺える。

確かに90分授業は多くの課題を持つ授業形態である。しかし、教員側の工夫によっては大きな可能性も持った授業形態であると言える。

### (3) 辛口の取組その2 - 多様な選択科目の設置

#### ⇒ カリキュラム・マネジメントのポイント

##### 基本理念

- ・新教育課程導入を機に、多様化する生徒のニーズや複雑化する受験科目に対応できるよう、従来の科目選択による編成(文・文理・理)を見直し、より生徒個々の希望を生かせる教育課程を設定する。

上記の基本理念を踏まえ、新教育課程を実施する平成15年度入学生から、2年次3年次における多様な選択科目を設置し、3年次における科目選択によるコース制を撤廃する。

これにより2年次35単位中、14単位(40%)、3年次35単位中、21単位(60%)が選択科目となる。

##### 導入理由

2年次より自分の興味や進路に希望に合った選択が可能になるとともに、早くから自分の進路に対する意識を持たせることができる。

3年次において文系理系の区別なく、幅広い選択ができるようになる。また、選択の仕方によってはセンター試験に対応できる。

##### 実施状況

- ・入学後数か月で2年次の選択科目を考えなければならないという状況を踏まえ、学年団だけでなく全教員が、生徒の選択決定に対するサポート体制を敷いた。
- ・「総合的な学習の時間」を活用し、自分なりのキャリアプランを考えさせる取組を実施した。(職業体験プログラムや大学の授業体験など)

##### 評価

多様な選択科目設置に関しても、教員並びに生徒から様々な意見が寄せられた。

- ・教員側からは「選択科目調査後の変更の要望が多い」「生徒の選択の組合せが多くなり過ぎ、クラス編成が困難となる」「教員一人当たりの担当科目の種類が多くなり過ぎる」という点が挙げられた。
- ・また、生徒からは「進路について早くから考えるきっかけとなった」という声が多く寄せられ、否定的な声はほとんど上がらなかった。ただ、「嫌いな科目を2年から取らなくても良いからうれしい」という、少し考えさせられる声もあった。

##### 成果と今後の課題

- ・1年次から果たして将来を見据えての選択が可能なのか、当初は不安もあった。しかし選択科目決定の期限が近づくにつれて、担任を始めとする教員に様々な相談を持ちかけてくる生徒の姿が頻繁

に見られるようになった。

早い時期からの選択科目決定という経験は、生徒の、自分自身のキャリアに対する意識付けを高めるきっかけとなったことは間違いない。

- ・一方、課題となる点に関しては微調整を余儀なくされた。

まずは生徒によりじっくりと進路について考えさせるため、選択科目決定の時期を遅らせた。次に、選択科目の組合せパターンを精選した。本来の趣旨からは離れた決定ではあるが、クラス編成や教員数の問題からもやむを得なかった措置である。

多様な選択科目設置は、生徒の様々な興味・関心に対応させるとともに、生徒の進路に対する意識を高めることがねらいである。そしてそれを実現するための教員側のきめ細かいサポート体制は、この取組が単なる目新しいものにならないためにも必要不可欠である。

### 3 まとめ

ここまで挙げた上溝南高校の二つの取組はともに、生徒の自主的かつ真摯に学び考える姿勢や教員側の生徒支援に対する情熱が要求される、生徒にも教員にも、言わば「辛口のカリキュラム」ということが言える。別の言い方をすれば、教員・生徒の受け入れ態勢がなければ成立しない、導入する学校を選ぶカリキュラムとも言える。

実際にこの二つの取組により学校は確かに、今まで以上に教材に対する、授業に対する、そして進路に対する教員同士もしくは生徒と教員間の話し合いが増えた。また、それぞれの取組に対する改善策を通して上溝南高校に最適なカリキュラムを模索する動きも生まれた。

#### ➡ カリキュラム・マネジメントのポイント

この上溝南高校の取組は、神奈川県の高校教育改革の流れの「多様な教育の提供」「柔軟な学びのシステムの実現」を「辛口カリキュラム」というカリキュラム・マネジメントの実践を通して推進していると言することができる。

### 4 上溝南高校概要

(1) 校名：神奈川県立上溝南高等学校

(2) 所在地：神奈川県相模原市上溝 269 番地

ホームページアドレス <http://www.kamimizominami-pen-kanagawa.ed.jp/>

(3) 教職員数（常勤のみ）

（平成 18 年度同校学校要覧、p.13 から作成）

校長	教頭	総括教諭	教諭	養護教諭	実習助手	事務職員	学校司書	技能技員
1	1	3	37	1	1	4	1	2

## 高等学校のためのカリキュラム・マネジメントによる学校改善ガイドブック

### (4) 生徒数

1・3年 各6クラス、2年 5クラス 合計17クラス 計679名

(平成18年度同校学校要覧、p.8から作成)

### (5) 沿革(平成18年度同校学校案内を参照)

- ・昭和51年創立。第1回入学式を挙げる。
- ・平成16年 創立30周年記念式典を挙げる。

### (6) 教育方針(平成18年度同校学校要覧より抜粋)

**「豊かな人間性を養い、高い人格と識見を具えた有為な人材の育成をめざす」**

### <参考・引用文献>

上溝南高等学校 平成18年 学校要覧および学校案内

**(実践事例3) 新校再編を視野に入れた教育活動の総括と改善**  
- 神奈川県立相模大野高等学校のカリキュラム・マネジメント実践事例 -

**1 相模大野高校のカリキュラム・マネジメントのポイント**

相模大野高校のカリキュラム・マネジメントのポイントは次のとおりである。

新校への再編を、教育活動のすべてについて総括と改善の契機としている。  
新校のコンセプトを視野に入れて、現在の教育活動の改革を図っている。  
校長から示された「学校運営方針」と「教育計画」に沿い、グランドデザインの作成をベースに、全校的な取組が行われている。

**2 相模大野高校の教育活動**

**(1) 教育活動の特色**

相模大野高校の特色は次のようなものである。

- ・「県立高校 100 校計画」で開校した学校である。100 校計画の中では後発に属するが、卒業生のほとんどが進学しており、生徒・保護者ともに、進学意欲は高い。
- ・平成 16 年度の通学区域(学区)撤廃により、旧相模原南部学区外からの入学者が、旧学区内の生徒数を上回っている。
- ・平成 8 年度から 2 学期制を導入し、現在まで継続している。この取組は県内の県立高校としては初発に属する。
- ・平成 6 年度から国際理解教育を推進している。多文化共生をテーマとした講演会や特別授業を継続して行い、平成 16 年度からは英語を集中的・実践的に学習する「イングリッシュキャンプ」を実施している。
- ・理系への進学希望者の比率が高く、理科では理科総合の外に、物理・化学・生物の 3 科目が履修でき、うち 2 科目は までの履修が可能な教育課程を編成している。
- ・平成 17 年度から「キャリア教育実践推進モデル校」となり、「総合的な学習の時間」を中心として、教育目標を具現化するよう生徒の自己実現のための取組を行っている。
- ・特別活動では生徒の主体的な活動を重視した学校行事を展開している。また、80%以上の生徒が部活動に加入している。

## (2) 中等教育学校への再編と現状総括

平成 16 年 9 月に発表された「県立高校改革推進計画後期実施計画」において、平成 21 年 4 月に、6 年制の中高一貫教育を行う中等教育学校に再編されることが示された。

基本設置案に示された新校（中等教育学校）の骨格は次のようなものである。

- ・新校の教育活動の枠組みは、6 年間を見通した教科指導やキャリア教育、異年齢集団を活用した教科外活動などである。
- ・授業時間は「45 分 7 校時の弾力的運用」とされている。
- ・後期課程（高等学校相当 3 年間）は、単位制普通科である。

新校の準備を、相模大野高校の発展的な再編ととらえ、現在の教育活動を新校の基盤として位置付けた。そのため、新校のコンセプトを想定した上で現状の総括を行っている。

「新校準備委員会」が作成した中等教育学校のコンセプトは、その教育活動の柱を「学び」「キャリア」「生活」としている（32 ページ参照）。一方で、現状は次のようである。

- ・過去の進路の実績や通学の利便性などから、入学を希望する生徒が多い。
- ・生徒は主体的に判断し行動でき、リーダーシップを発揮する場面が多い。
- ・全ての生徒が現行の学習指導要領による教育課程下に入り、改善の課題が明確になった。特に他教科との関連などから「情報」や「総合的な学習の時間」の早い年次での履修の必要性が認識された。
- ・入学直後の学習指導では、一斉指導よりも個別・習熟度などに応じたきめ細かい指導が必要であることが指摘された。
- ・授業時間数と行事への時間配分の検討が求められている。
- ・教員は、生徒が進路や志望校を一層積極的に選択することを期待している。
- ・平成 17 年度に実施した保護者対象のアンケートからは、現在の教育活動への肯定的な評価と否定的な評価の両方が、強く読み取れた。たとえば、少人数の学級編成や活発な特別活動などへの肯定的な評価がある一方で、学習指導のあり方（学習時間の確保）や進学校としての進路指導（説明会・面談・情報提供）や生活指導などへの一層の期待を寄せる声も多い。

## 2 相模大野高校のカリキュラム・マネジメントの実践事例

### (1) 学習指導面からの取組

#### ➡ カリキュラム・マネジメントのポイント

- ・平成 17 年度まで週 30 時間であった教育課程を平成 18 年度は 32 時間とした。このことにより、年間約 50 時間の授業時間増を図った。またこのことに伴い、「情報」と「総合的な学習の時間」を早期に履修させることとした。
- ・年間行事を見直し、テスト日程などの工夫により年間約 20 時間の授業時間増を図った。

- ・単位制的な運用を視野に入れ、「総合的な学習の時間」の実施形態を工夫するなど、前後期で一部異なる時間割を編成することとした。
- ・さらに平成 19 年度以降は 45 分授業で週 35 時間の時間割を編成することとした。また、授業と行事の時間配分を 4 : 1 とし、授業を 1 単位時間あたり 28、行事を 7 と定めた。これらにより、授業時間は約 40 時間（50 分単位）増となる見通しである。
- ・平成 18 年度入学生から、それまで実施していた 1・2 年次での 30 人規模の学級編成を廃止し、数学と英語の習熟度・アプローチ別に小集団を編成することとした。
- ・平成 18 年度からシラバス・観点別評価・授業評価を効果的に用いて、生徒が主体的に学習に取り組める環境を整えることとした。
- ・「国際理解教育」や理科教育のこれまでの取組を発展させ、新校の特色となる選択科目に継続することを視野に入れ、平成 19 年度から短期集中講座「サイエンスラボラトリ」「イングリッシュアクション」「パブリックスピーキング」を、学校設定科目として開設することとした。

## (2) キャリア教育の面からの取組

### ⇒ カリキュラム・マネジメントのポイント

- ・教育課程表の見直しにより、「総合的な学習の時間」を 3 年間継続して行うことができるようになった。このことにより、平成 18 年度入学生からは「総合的な学習の時間」を中心とする計画的なキャリア教育の実施を通して、生徒の主体的な進路選択と自己効力感の醸成を図ることとした。
- ・平成 19 年度の学校行事の編成にあたっては、授業と行事の配列の工夫による学習意欲の向上や、実力テスト・面談等の定期的な実施により、進路指導の充実を図り、さらに主体的・積極的な進路・志望校選択を促すことを図ることとした。

## (3) その他の取組

### ⇒ カリキュラム・マネジメントのポイント

- ・新校の教育活動のコンセプトと、そのためのアクションプランとしての「相模大野高校グレードアッププログラム」を作成した。（32 ページ参照）
- ・すべての教育活動の体系化を図るため、平成 18 年度中にグランドデザインを完成させる予定である。

## 3 まとめ

### (1) カリキュラム・マネジメントの方向性等

同校のカリキュラム・マネジメントの取組の方向性は、校長から平成 18 年度当初に示された「相模大野高等学校学校運営方針」と「相模大野高校教育計画」に沿って行われている。前者は「学校の現状」「中期的課題」「短期的課題（今年度課題）」からなり、後者は「長期的課題」と「中期的課題」の 11

の計画が示されている。

神奈川県の高校教育改革では、既述のように相模大野高校は中等教育学校に改編されることになっている。現在行われている同校の取組は、そのことを前提としたものである。しかし、中等教育学校への再編ということを除いても、同校は、神奈川県の高校教育改革の流れである「柔軟な学びのシステムの実現」「学校運営等の改善・充実」に努めていると言える。

## (2) 現在までのカリキュラム・マネジメントの効果と今後の課題

「学び」「キャリア」に比べ、「生活」の部分は課題の共有化や全校的取組が立ち遅れており、早急な取組が必要である。なお、実質的なカリキュラム・マネジメントは平成17年度から始まっており、平成18年度学校評価等の結果などを、平成17年度と比較して評価することになるが、平成18年度卒業予定者では、大学への推薦入試希望者が対前年比で学年の2割程度減少するなど、志望校選択において主体性が発揮され始めているなどの効果が指摘されている。

### 4 相模大野高校概要

(1)校名： 神奈川県立相模大野高等学校

(2)所在地： 神奈川県相模原市相模大野4-1-1

ホームページアドレス <http://www.sagamiono-h.pen-kanagawa.ed.jp/>

(3)課程・学科：全日制普通科

(4)教職員数（常勤のみ：平成18年5月1日現在）

校長	教頭	総括教諭	教諭	再任用	兼務教諭	実習助手	事務長	司書	事務	技能技員
1	2	4	39	1	1	1	1	1	2	2

(5)生徒数（5月1日現在）（1年6クラス、2年8クラス、3年6クラス） 計719名

(6)沿革

- ・昭和60年4月 開校
- ・平成8年 2学期制導入

(7)教育目標

人格の完成をめざし、高い知性と豊かな情操をそなえた、心身ともに健全で、次世代を担うにふさわしい人間を育成する。

### <参考・引用文献>

相模大野高校 平成18年度 学校要覧

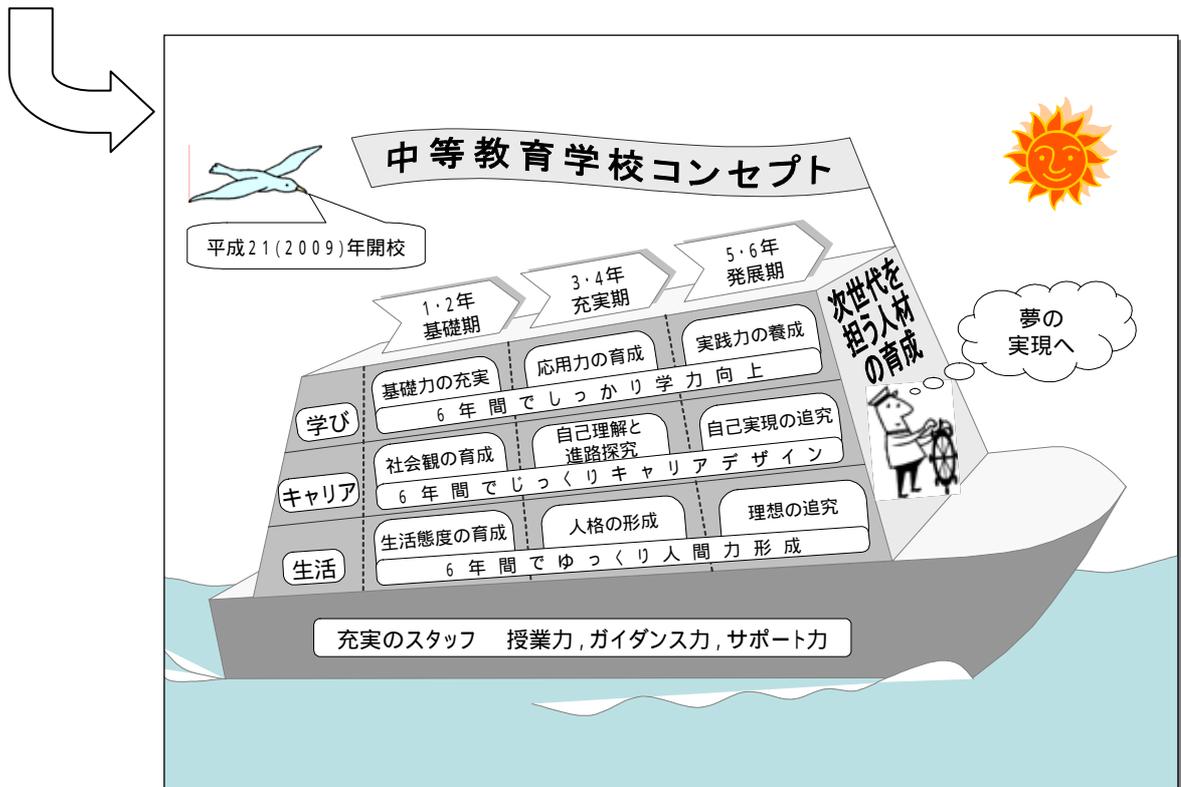
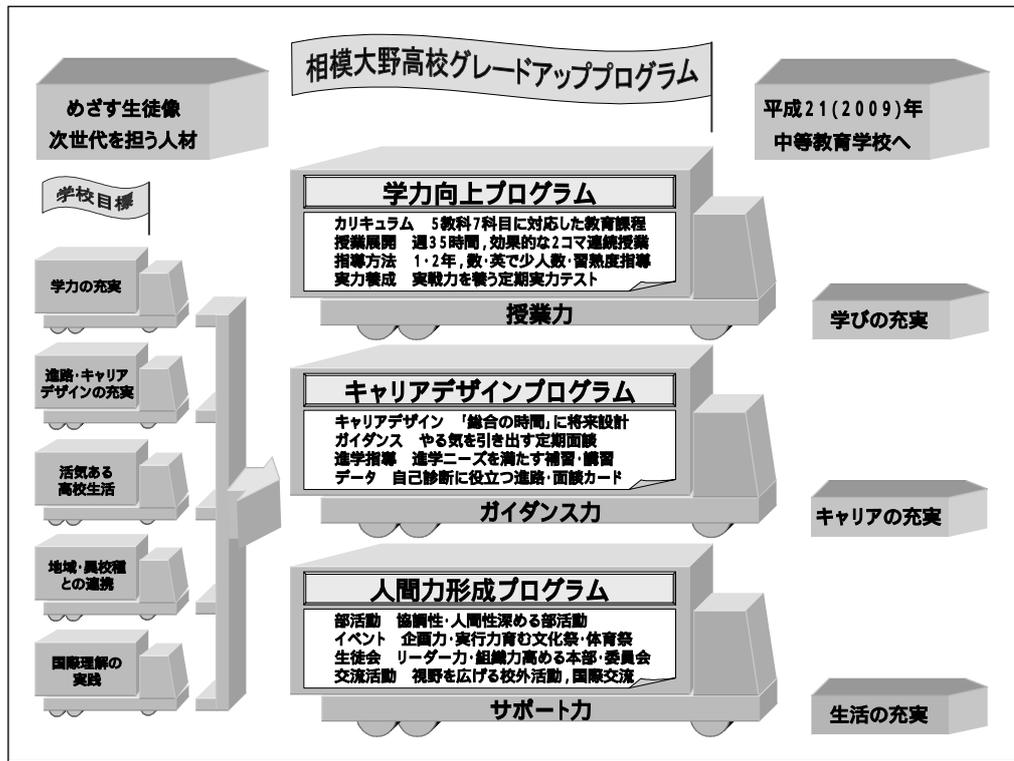


図 - 3 相模大野高校グレードアッププログラムと中等教育学校コンセプト  
(相模大野高校作成)

## (実践事例4) 学系カリキュラムの開発と地域に開かれた学校経営

- 東京都立足立新田高等学校のカリキュラム・マネジメント実践事例 -

### 1 足立新田高校のカリキュラム・マネジメントのポイント

足立新田高校のカリキュラム・マネジメントのポイントは次のとおりである。

**多様な入試の実施による入学者選抜方法の見直しを行った。**  
**学系カリキュラムによる教育課程の再編をした。**  
**生徒のニーズや質の変化にきめ細かく対応した学校運営を行った。**  
**地域への広報活動等、地域との協働による学校改善を行った。**  
**組織的な教員研修を実施した。**

#### はじめに - 足立新田高校の学校改善

平成 18 年 6 月 6 日の読売新聞に足立新田学校について次のような記事が掲載された。

「教壇に背を向けて携帯電話のメールを打ったり、漫画雑誌に読みふけったり・・・。前回の取材で目にした生徒たちの様子だ。授業中、廊下で“休憩”する生徒たち(中略)その高校をこのほど再訪し、『これが同じ学校か』と目を疑った。校内の雰囲気が一変していた。(中略)鈴木前校長のもと、同校が改革に取り組み始めたのは 97 年。99 年度の入学生から、2 年次にスポーツ健康系、福祉教養系、情報ビジネス系のいずれかを選ぶ学系列選択科目制(学系)を都立高で初めて導入。生徒の興味や関心、適性などを重視したカリキュラムにした。97 年度入学生で 46.2%に上っていた中退者の割合は、翌年から減少し続け、今春卒業した 03(H15)年度入学生は 5.5%にまで減った。教頭から 03 年に昇進した荒川校長(57)は、『無職の少年は犯罪に巻き込まれる確率が高い。生徒を学校から放り出さないよう、先生たちが熱意を持って子どもたちと向き合ったのがよかった』と話す」

同校は昭和 54 年、地域に求められ足立区内の都立高校 9 校の最後に創立され、27 年が経過した。学級数 21、生徒数 725 名(平成 18 年 5 月 1 日現在)、足立区の最西端に位置し、北区との区境を流れる隅田川と荒川放水路に挟まれた中洲のような地域に立地し、学区制の頃は通学が困難な高校であった。周囲は商店、工場、住宅が混在するが、地域としての一体感は強い。

平成 6 年～8 年、学校存亡の危機にさらされた。東京都では、平成 6 年から単独選抜制度が導入されたが、3 年連続定員割れ、不本意入学者の激増、50%を超えた中退率など課題が集中した。そのような状況の中、「特色ある学校」、「開かれた学校」づくりをめざし学校改革に着手した。平成 9 年～11 年、「足立新田」の学校改革～夢と潤いのある学校づくり～をテーマに、多様な入学者選抜方法、柔軟で多様な

教育課程、選べる制服、広報活動、メディアへの対応、地域の人材・施設の活用など学校独自のプランを打ち出した。

## 2 足立新田高校のカリキュラム・マネジメントの実践事例

### (1) 多様な入学者選抜方法

#### ⇒ カリキュラム・マネジメントのポイント

既述のように平成6年度から東京都の入学者選抜制度は、単独選抜制度へ移行し、翌年には普通科に推薦制度が導入された。単独選抜制度移行後、同校では募集定員割れが続き、3年間第二次募集を実施した。平成9年度に、東京都教育委員会の選抜方法等の改革への動きがあり、平成10年度、同校は新たな選抜方法を導入した。第一次募集での定員割ればかりか、合格した入学生の中退率が高かったこと等を踏まえ、第一次募集の定員を初めから2回に分けて実施する分割募集(前期・後期)の制度を導入した。受検機会を増やすことによって受検生や保護者の要望に応えられるとともに、前期募集の定員を減らし後期募集で学区を超えて募集できる利点があった。また、生活指導上の課題が多かったので、基本的な生活習慣等が身に付いているか否かを選抜基準として重視するため、学力検査や調査書だけでなく、すべての選抜で面接を実施した。さらに推薦選抜では運動能力テストと自己表現力をみるパーソナルプレゼンテーションテストを採用した。これらは先進校に学びつつ独自に工夫したものであり、受検生の意欲や適性を多面的にとらえようという意図があった。さらに特色化を図るため、平成16年度入学者選抜からは文化・スポーツ特別推薦(相撲・陸上競技)を実施した。

### (2) 柔軟で多様なカリキュラムの導入(学系列選択科目制の導入)

#### ⇒ カリキュラム・マネジメントのポイント

学校改革の柱は柔軟で多様性のある魅力的なカリキュラム編成であるとし、魅力あるカリキュラムにするため教育課程の再編、創意工夫を取り入れた魅力ある授業開発を行った。コース制の導入も含め協議を重ねた結果、生徒たちの関心が高く学んでみたいと思う科目群を設定することとなった。平成11年度入学生より2・3学年で普通科目以外に、「スポーツ健康系」「福祉教養系」「情報ビジネス系」の三つの科目群から一つを選択する学系列選択科目制を導入した。三つの学系列科目群の多くの科目は実践性を重視した授業構成である。平成12年度より、各々週3科目(計6時間)の学系列科目を設定した。特に、「生涯スポーツ」「高齢社会と人間」「マルチメディア」等計15科目の学校設定科目(2単位)を中心に、将来の資格取得に向けて専門教育機関で学ぶための「基礎的知識・技術を身につける準備学習」に位置付けた。

### (3) 生徒の立場に立った生活指導・・・選べる制服(制服の改定)など

#### ⇒ カリキュラム・マネジメントのポイント

## 高等学校のためのカリキュラム・マネジメントによる学校改善ガイドブック

平成9年度に制服検討委員会（教務・生徒・保健各部の代表）が設置され、生徒が関心を抱く制服をテーマに資料収集を始め、いろいろなアイデアが出された。5種類に及ぶブレザー、スカート、スラックスなどを用意し、生徒の好みで選び、組み合わせて着用する「選べる制服」を採用した。ここに至るまでには制服についての教員の意識改革が必要でもあった。また、制服の改定だけでなく、頭髮指導にも力を入れ、髪の毛の染色、脱色をなくした。

校内美化活動（心を癒す環境づくり）も行った。校長が率先して、作業着に着替え、校内美化の機運をつくり上げていった。また、平成10年度からPTAの交通安全部を生活厚生部と改め、美化活動に協力してもらった。季節ごとに花を植え、心を癒す環境づくりに取り組んできた。

### （4）地域に開かれた学校・・・広報活動、メディアへの対応、地域の人材・施設の活用

#### ⇒カリキュラム・マネジメントのポイント

中学校訪問及び体験入学・学校説明会等の広報活動を通し、改革の趣旨や意欲を中学校に伝え、理解を得ることに努めた。平成11年度より教務部や有志で斬新なデザインの学校案内や学校紹介ビデオを制作した。教務部を中心に全教職員で地域の中学校約200校を訪問し、年間10回を超える体験入学と学校説明会や相談会を実施し、全校一丸となって広報活動を行った。元旦説明会（参加約150名）も行った。

平成11年度より学校運営連絡協議会の設置も行った。地域の声を直接聞く機会をつくり、全教職員への浸透を図っている。外部委員は近隣小・中学校長、区職員、町会長、施設指導員、前校長、元PTA会長の12名を選任している。年5回（評価委員会含む）の施設見学や授業観察等を行い、学校の実情や課題について協議するものである。創立当時から同校に強い思いを持つ委員の意見や助言をもらうことにより、教職員が地域への関心を深めるなど意識変革につながりつつある。

また、メディアへの対応も行った。同校の学校改革への取組や悪戦苦闘の様子などは、何度もマスメディアを通して報道され、また、教育専門紙からの取材も数多く受け入れてきた。

加えて、市民講師の任用も行った。「スポーツ健康系」の地元ゴルフ場を利用したの専属のプロによる指導などである。平成12年度より「情報ビジネス系」「福祉教養系」において市民講師を任用した。地元ゴルフ場のグリーンキーパーや地域の保育園、老人介護施設、専門学校を中心に、学校間連携・交流などを行った。今後、「福祉教養系」「情報ビジネス系」の選択希望が増える傾向にあるので、近隣施設を利用できるような連携は極めて重要である。この取組は就業体験の機会にも活用している。

### （5）教員の研修

#### ⇒カリキュラム・マネジメントのポイント

学校運営に積極的な教員や若手の教員の学校視察派遣を通し、改革の実務者やオピニオンリーダーを育成している。特色ある学校づくりに取り組んでいる全国の公立・私立学校を視察し識見と意欲を深める取組を行っている。視察内容は全教職員に報告され業務に還元されている。

**3 まとめ**

同校校長によると、「進路実現決定率 90%以上（就職 30%・専門学校 30%・大学 30%）を目指すのが、決して進学校を目指すものではなく、また、中堅校を目指すものでもない。隅田川と荒川に挟まれた足立区の下町に位置する高校として、中学までは力が十分に発揮できなかった受検生が魅力を感じる面倒見のいい学校、やる気を持たせ、得意な能力を伸ばす学校、チャレンジ精神を養い、可能性を広げ、進路を実現する学校像をイメージする」という。これは、換言すれば、同校のカリキュラム・マネジメントのポイントは、生徒側の視点に立っていることである。すなわち、体験的授業や実習授業など、現代の生徒たちを分析し、彼らの資質・適性に配慮した授業を行っている。生徒を学校に居させ、生徒を学習活動に乗せる方法を工夫している。生徒のニーズや質の変化、学校を取り巻く状況の変化にカリキュラムを的確に対応させている。三つの学系カリキュラムは、男女の別なく生徒の多様な興味・関心を想定し、魅力的に設定し、確実な志願者の増加につながっている。学校に課された使命を鑑み、公教育の視点に立っていると言える。

今後の同校の課題は、進路未定者(フリーター)の防止を進路実績に結実させるための、学習指導及び進路指導の充実であるという。校内活動では習熟度別授業・特別進路クラス編成を始め、進路希望に対応した学力向上を目指している。校外活動では資格取得・技能習得などを目指してインターンシップ、学校間連携、市民講師の任用、実習施設の活用などを進めている。学校が核となり、家庭と地域を結び付けることによって、教育活動への支援体制をつくりたいと考えている。

**4 足立新田高校概要**

(教育課程表については巻末資料編に掲載)

- (1) 校名：東京都立足立新田高等学校
- (2) 所在地：東京都足立区新田 2 - 10 - 16

ホームページアドレス <http://www.adachi.ne.jp/users/sinden3/index.html>

- (3) 教職員数（常勤のみ）

校長	副校長	教諭	養護教諭	実習助手	経営企画室	司書	用務員
1	1	45	1	1	3	1	2

- (4) 生徒数 6クラス規模 18学級。男子 320、女子 405、計 725 名。

- (5) 沿革
  - ・昭和 54 年 4 月第 1 回入学式挙行
  - ・平成 18 年 3 月第 25 回卒業式挙行

- (6) 教育目標

人間尊重の精神を基調とし、一人ひとりの個性の確立をめざし、それぞれの適性に応じて将来の進路を決定し、新しい時代と社会に貢献できる有為な人材を育成するために、次の目標を掲げる。

## 高等学校のためのカリキュラム・マネジメントによる学校改善ガイドブック

基礎学力を充実して自ら求めて学ぶ学習習慣を身につけ、知性の開発を目指す。

豊かな情操を育て、真・善・美へのあこがれと実践力を身につけ、感動する素直な心を大切にする。

健やかな心身を鍛え、困難にうちかつ体力と意志の力を身につけ、気力の充実を図る。

### <参考・引用文献>

東京都立足立新田高等学校 平成 17 年 学校要覧 pp. 1 - 3

東京都立足立新田高等学校 平成 18 年 「足立新田の学校改革」第 6 版 平成 18 年 5 月追記

東京都立足立新田高等学校 平成 18 年 「学校案内」

読売新聞平成 18 年 6 月 6 日付朝刊「教育ルネサンス」「中退激減 - 都立足立新田高『熱意の指導』で改革 奏功」

## (実践事例5) 学力向上を基軸としたカリキュラム・マネジメントの取組

- 岐阜県立関高等学校のカリキュラム・マネジメント実践事例 -

### 1 関高校のカリキュラム・マネジメントのポイント

関高校のカリキュラム・マネジメントのポイントは次のとおりである。

伝統校の地位に安住せずに、危機意識を持って学力向上を中心課題とした学校改革に臨む体制を整えた。

学力向上フロンティアハイスクール指定をきっかけとし、学校を挙げて様々な学力向上の取組を行った。

生徒にどの程度の学力を要求するかという基準を「関高学力スタンダード」等で明確に示した。また、これにより教員の共通意識も培われた。

教職員も生徒も、常に保護者や地域の期待を担っているという意識を持ち続けるような取組を行った。

### 2 関高校のカリキュラム・マネジメントの実践事例

#### (1) 現実を見つめて - 関高校活性化推進委員会の立ち上げ

##### ⇒ カリキュラム・マネジメントのポイント

関高校は、平成19年度に創立86周年を迎える伝統校であり、地区の中心校として様々な方面から期待される高校である。また、入学する生徒は地区内の中学校でもトップクラスの成績の生徒がほとんどであるが、活性化委員会立ち上げ前の状況は、必ずしも地域や保護者の期待に十分に答えられているとは言えなかった。具体的には次の2点が挙げられる。

最難関大学（東京大学・京都大学・医学部など）への進学実績が少ない。

服装・頭髮の乱れや交通マナーなどの不満や苦情が、地域・保護者から直接的・間接的に伝えられてきた。

この状況を打破するため、当時の校長の下、平成12年に関高校活性化推進委員会が立ち上げられた。

#### (2) 追い風来る - 学力向上フロンティアハイスクール指定の意味

##### ⇒ カリキュラム・マネジメントのポイント

関高校活性化推進委員会による学校改革に着手し始めた平成15年、学力向上フロンティアハイスクールに指定された。その際、学校として次の三つの柱を掲げた。

- 1 進路志望等に応じた早期からの学習・進路指導
- 2 学力向上を図るための学力評価法
- 3 生徒の実態に応じたきめ細かな学習指導と習熟度別学習指導法

具体的な取組としては、生徒の学力分析とその達成度を測るため各学年で段階的に実施される「**関高学力スタンダード**」などが計画され、当初から実施された。その他、「良いと思ったことはとにかくやってみる。」(『進研ニュースVIEW21』4月号、p.28)という姿勢で様々な取組を行った。その他の主な取組は次のとおりである。

- 1 新入生オリエンテーション時に導入指導として各教科の学習方法の説明をする。
- 2 「高校生研究者たち」: 生徒が自分の進路希望の分野に合わせて課題を設定する研究活動。事前に調査方法や論文の書き方を指導する。
- 3 「進路見学会」: 生徒の希望に応じ、大学、病院、各研究施設などを見学する。

他にも「習熟度別学級編成」や「土曜講座」、「朝学習」など様々な学力向上を目指す取組がなされた。この取組はある学年から開始されたが、最終的に学校全体で取り組むこととなった。また、地元の中学校の教員に対し、「学力向上フロンティアハイスクール報告会」も実施した。この報告会はこの後恒例となるが、「関高校はこれだけ様々な取組をしている」ということをアピールするという点においても、重要な催しである。

関高校にとって学力向上フロンティアハイスクールの指定は、改革を進めようとする機運とも合致し、学校全体における改革の意識付けが明確な形でなされる一助となった。ともすれば、「押しつけられた」と感じる学校もある中、関高校は、望ましい形で学力向上フロンティアハイスクール事業を進めることができたように思える。ただ、このような形で学校改革を進めるには計り知れない現場の教員の努力が必要であることはいうまでもない。

### (3) 模索の苦しみ - 新たな取組の創造

#### ⇒ カリキュラム・マネジメントのポイント

新たな取組には、困難が必ずつきまとう。関高校においてもそれは例外ではなかった。「事業の個々の内容については学年会を中心に色々な議論をしたが、意見がまとまらないことも多くあった。」と、まさに産みの苦しみを経験したことが分かる。特に全国的にも注目された「**関高学力スタンダード**」(巻末資料編に数学と英語の抜粋例を掲載)の導入は多くの困難を伴った。

「**関高学力スタンダード**」は、関校生として最低限分かって欲しいこと、知って欲しいことを徹底したいという同校教職員の思いから企画された。しかしそのコンセプトを決める段階で、各教科の教員は『そもそも関高生にとってのスタンダードは何なのか』というところから何度も議論を重ねた。難易度をどうするかで意見の相違も見られた。ただ、その議論が教員自身の授業観・教材観に大きな刺激を与えたことも事実である。時間をかけながらも真摯に互いの教育能力や指導技術、教材などのノウハウを、ベテランと若手が一緒になって話し合う機会が得られたのは貴重なことと言える。

しかし、それでもやはり労力的な負担は大きかったろうということは容易に想像できる。この点に関して関高校の担当者からは次のような回答が寄せられた。

「様々な意見はあっても学校としての方向性を持ち、多くの教員がそれぞれの役割を意欲的に果たしてくれた。これは『関高校をなんとかしたい、何とかしなければ』という教員の危機意識もあったと思う。」

このような大々的かつ斬新な取組を成功させる一番のポイントは、学校の教職員全員が課題を共有しているかどうかという点にある。関高校では初年度は一部の学年団の教員が中心となって作成していた「関高学力スタンダード」の作成に、次年度からは多くの教員が関わったということも報告されている。今後もこのような、学校を挙げての体制をとることができれば、学校改革もより望ましい形で継続されることであろう。

#### (4) 努力の報酬 - 新たな取組の効果

##### ⇒ カリキュラム・マネジメントのポイント

前項であったように、新たな取組の導入を通して教員間で話し合う機会が増えてきたことは学校にとっては大きな前進であったろう。この点も含めて、関高校の一連の改革の取組が具体的にどのような効果を挙げたかを、関高校からの回答を基に挙げる。

- ・「**関高学力スタンダード**」の結果分析により、そこで得られた内容を授業にフィードバックできた  
また、スタンダードテストでは全員合格を目指し、追試験や補習を行い、授業における一定の水準を確保することができた。
- ・「**進路見学会**」など、進路に対する意識を高める取組の効果か、国公立大学に合格した生徒数が前年よりも増加した。(前年比1.5倍)特に名古屋大学への合格者は前年度7名から18名に増加した。
- ・きめ細かな取組により生徒と教員との連帯感も向上した。また、生徒の学校や地域への帰属意識が高まり、落書き消しなどの地域貢献活動も行われるようになった。
- ・「**関高学力スタンダード**」の作成における話し合いなど、教員間で意見交流をする機会が増え、授業改善が行われた。そのため生徒の授業に対する姿勢がこれまで以上に良くなった。
- ・生徒の問題行動も激減し、アンケートによる学校満足度調査においても、前年度を超える80%以上の生徒が学校生活に満足していると答えた。また、取組に対する姿勢を発信することにより、地域や保護者に「学校満足度」を高める学校の努力を理解してもらえるようになった。

これらは全て、学校全体で真摯に学校改革に取り組んできた成果である。

### 3 まとめ

#### 新たな明日へ - 今後の課題と更なる取組

学力向上フロンティアハイスクールに指定された学校にとっては、その指定が終了した後をどうする

## 高等学校のためのカリキュラム・マネジメントによる学校改善ガイドブック

かが新たな課題となる。関高校からは、次の点があげられた。

- ・学力向上フロンティアハイスクール指定に伴う取組を吟味し、指定終了後も継続していく事業を精選する必要がある。
- ・高大連携の取組の更なる強化により、今後の教育の質の向上・学習意欲の向上・進路意識目的意識の高揚を図っていく。
- ・「関高学力スタンダード」のコンセプトも含め、抜本的な改訂を行う。
- ・中学校や地域との連携の在り方と、今後の具体的な方策を考えていく。

高大連携に関しては、地域的制約もあり、首都圏などの近隣に多くの大学がある地域の高等学校に比べてなかなか難しいと思われるが、「医学概論」や「中国語特講」を中部学院大学と連携して実施している点などは評価できると言える。

伝統校と呼ばれる高校は、ともすれば、その地位に安住して危機意識を持つことができなくなっている学校が多い。しかし、それにもかかわらず保護者や地域の期待は増してくる。その声に、いかに敏感に対応できるかが、名実共に真の地域の中心校となるか、過去の栄光だけにすがって存在し続ける学校になるかの分かれ道だ。関高校が当初感じていた危機感は、全国の伝統校が共通して持ち続けなければならないものであろう。

### 4 関高校概要

(教育課程表は巻末資料編に掲載)

(1)校名： 岐阜県立関高等学校

(2)所在地： 岐阜県関市桜ヶ丘2-1-1

ホームページアドレス <http://school.gifu-net.ed.jp/seki-hs/>

(3)教職員数(常勤のみ)

校長	教頭	教諭	常勤講師	養護教諭	実習助手	事務職員	学校司書	用務員
1	1	49	3	2	2	4	1	1

(平成18年度同校学校要覧、p.7から作成)

(4)生徒数

1・2学年 各8クラス、3学年 9クラス 計25クラス 計996名

(5)沿革(平成18年度同校学校案内を参照)

- ・大正11年 岐阜県武儀高等女学校として創立。
- ・昭和23年 岐阜県立関高等学校と改称(学校改革による)される。
- ・平成13年 創立80周年記念式典を挙げる。

(6)校訓(平成18年度同校学校要覧より抜粋)

「進取の気概・至誠の心・日々練磨」

## 高等学校のためのカリキュラム・マネジメントによる学校改善ガイドブック

### <参考・引用文献>

岐阜県立関高等学校 平成 18 年「学校要覧」および「学校案内」

ベネッセ『進研ニュース VIEW21』平成 18 年 4 月号、ベネッセ、平成 18 年、pp.28 - 31.

**(実践事例6) 課題把握による、走りながらのカリキュラム・マネジメント**

- 筑波大学附属坂戸高等学校のカリキュラム・マネジメント実践事例 -

**1 筑波大坂戸高校のカリキュラム・マネジメントのポイント**

筑波大坂戸高校のカリキュラム・マネジメントのポイントは次のとおりである。

カリキュラム・マネジメントは「学校の特色をつくる戦略」ととらえる。

「カリキュラム開発」を常に学校運営の中心においた実践を行う。

校長以下、教職員全員による「課題意識」の共有と課題への組織的対応。

校長の強力なリーダーシップと教職員の協働。

「走りながら考える。漕がない自転車は倒れる」がモットーの学校経営による、迅速な Check - Action による学校改善の実践をした。(服部前校長による)

現状に満足せず、常に学校改善の意識をもつ「学校更新」の考え方。

**2 筑波大坂戸高校のカリキュラム・マネジメントの実践事例**

**(1) カリキュラム・マネジメントによる「学校の特色づくり」戦略**

**⇒ カリキュラム・マネジメントのポイント**

同校前校長服部次郎氏は、今日の高等学校の課題は「カリキュラムマネジメントで学校を特色化すること」であり、学校独自の特色あるカリキュラム開発に取り組まない学校は「早速潰れる」とカリキュラム・マネジメントの重要性を指摘した。「専門学科高校を総合学科高校へ改編することは、まさにカリキュラムマネジメントである」と当時を述懐している(服部次郎 平成16年「本校総合学科におけるカリキュラムマネジメント」『月刊高校教育』8月号、学事出版、p.35)。

**(2) 第一次学校改革 - 総合学科のカリキュラム開発**

**⇒ カリキュラム・マネジメントのポイント**

**⇒ カリキュラム・マネジメントのポイント**

**ア 総合学科開設初期 - カリキュラム開発による学校運営**

同校の総合学科改編へ向けたカリキュラム開発は、「総合学科を創る」という仕事を「新しい教科・科目のカリキュラム開発」を基軸として、学校運営の全体像を考えていくというカリキュラム・マネジメ

ントの活動そのものであったと言える。

#### イ 学校課題の把握と教職員の自主的課題解決

同校の総合学科への改編は、専門学科高校のままでは、廃校の危機を免れなかった学校を建て直そうと、「教職員全体が主体的に取り組んだ学校改革」（傍点は総合教育センターによる）であることに大きな特色がある（筑波大学附属坂戸高等学校編 平成13年『「総合学科」を創る』学事出版、p.28）。これは、当時の教職員が、自分達の学校の危機的状況を立て直そうと、総合学科への改編に組織全体として取り組んだことに大きな意義がある。このことは、自校の課題を組織として認識し、その解決に向かって進むことが重要だということである。

### （3）走りながらの学校運営（形成的評価の実施）による、迅速な Check - Action による学校改善

#### ➡ カリキュラム・マネジメントのポイント

全国初の総合学科として、同校の学校運営は注目された。しかし、開校後、様々な課題が出てきた。それらは、「できるだけ生徒の有利になるよう」つくられた総合学科システム（特に教務のシステム）が、生徒指導上の課題面から、大幅な見直しを迫られたことや、2学期制が同校の場合には有効に機能しなかったこと、などである。筑波大坂戸高は、これらの課題に対し、手をこまねくことなく迅速に対応し、つくったばかりの総合学科のシステムの見直しを実施した。たとえば、学習規程の強化による生徒自身による「自己責任」の徹底、入学者選抜方法の改善、正副担任によるきめ細かい学級経営や年次会メンバー全員（学年制の学校の「学年会」にあたる。）による生徒のケア、授業の充実による生徒指導への取組、「産業社会と人間」の絶えざるカリキュラム改善、などである。「産業社会と人間」は、当初の大枠は残しつつ、細部の指導内容は担当者が変わることにより、変更・修正されたという。まさに「走りながらの学校改善」であった。つまり、筑波大坂戸高校では、PDCA サイクルの特に C と A を統一的に営み、学校改善を常に実践してきたということである。

### （4）常に学校改善の意識をもつこと - 筑波大坂戸高校の第2次学校改革への取組

#### ➡ カリキュラム・マネジメントのポイント

#### ア 第二の学校危機

総合学科改編から8年が経過した平成13年度、筑波大坂戸高校では、応募者が大幅に減少した。これは、まだ「専門学科の特色から抜け出せないでいた」同校のカリキュラムや目指す学校目標が、専門学科高校、普通科進学校のどちらの面から見ても中途半端であること（服部次郎 平成16年「本校総合学科におけるカリキュラムマネジメント」『月刊高校教育』8月号、学事出版、p.38）に起因していた。教職員全員がこの危機を乗り越えなければいけないと考えた。

### イ 第二次学校改革の取組

このような第2の危機的状況に対し、同校は当時の服部次郎校長の強力なリーダーシップの下、再び「カリキュラムを変える」ことで対処した。一旦方針が決定したら、教職員全員で組織として改革に取り組んだ。第二次改革でも「カリキュラムをマネジメント」することで学校改善を行うことを学校運営の基本としている。特にカリキュラム面では「必修科目の縛りをきつくする」「課題研究の充実を図る」ことを行った。改編当初のカリキュラムを大学進学を進路目標とするものへと変えることにしたのである。もちろん、総合学科の特色をいかした大学進学への取組、具体的には「推薦入試」「AO入試」に対応できるカリキュラムづくりを目指した。この同校のカリキュラム改革では、筑波大学の学群・学類の区分けを参考として、これまで8系列だったものを四つの新系列(生物資源・環境科学、工学システム・情報科学、生活・人間科学、人文社会・コミュニケーションの各系列)に改編した。また、学期区分を今までの実践から見直し、同校の教育実践に合うように2学期制から3学期制へと変更した。それ以外にも、45分7時間授業、基礎学力検定制度や進路研究の時間の新設、土曜特別講座の開設などにより、最新の生徒募集パンフレットにある「大学で何を学ぶかを学ぶ進学校」という新たなビジョンの実現に向け、学校全体でカリキュラム・マネジメントを実践している。

### ウ 第二次改革の成果

筑波大坂戸高校のカリキュラム・マネジメント第二次改革の成果としては、同校を志願する生徒が増加し、結果として志願者のレベルが上昇した、大学進学者の数が増加している、ということが挙げられる。

## 3 まとめ

筑波大坂戸高校のカリキュラム・マネジメントの特徴は、第一次改革、第二次改革ともにカリキュラム開発、そしてカリキュラムの見直しを基軸としていることである。学校の教育活動の根本であるカリキュラムを学校の特色を作る基本戦略と考えて、その時々で同校が抱えていた課題を把握し、それを解決するためにカリキュラム開発を行っている。

そして、校長のリーダーシップの下、教職員全員が組織として教育活動を実施している。実施にあたっては、現状に満足することなく、新科目の開発等を行ってきた。同校の学校運営はこの営みの繰り返しであるにとらえることができる。まさにマネジメントサイクル(PDCA)が不断に営まれていると考えることができるのである。

本稿により、筑波大坂戸高校の取組が、一般には、高校教育改革の新タイプ校として注目されている同校の取組が、実は地道なカリキュラム・マネジメントの積み重ねから成果を挙げていることを理解してもらいたい。

**4 筑波大学坂戸高校概要**

(教育課程表については巻末に掲載)

(1)校名： 筑波大学附属坂戸高等学校

(2)所在地： 埼玉県坂戸市千代田1丁目24番1号

ホームページアドレス <http://www.sakado-s.tsukuba.ac.jp>

(3)課程、学科： 全日制総合学科

(4)教職員数(常勤のみ)：

校長	副校長	教諭	養護教諭	実習助手	事務	技術職員	事務員	用務員
1	1	36	1	3	3	1	2	2

(5)生徒数 各年次4クラス、計12クラス 計482名(平成18年度同校学校要覧、p.2)

(6)沿革(主な概要。同校学校要覧を参照し、まとめた。)

- ・昭和21年 学校組合立坂戸実務学校・坂戸実修女学校創立。
- ・昭和37年 全日制となり、生活科を新設し、農業科、農業機械科、家政科、あわせて4学科になる。
- ・昭和53年 筑波大学への移行に伴い筑波大学附属坂戸高等学校となる。
- ・平成6年 総合学科としての「総合科学科」を開設する。
- ・平成13年 坂戸高等学校編『「総合学科」を創る』を刊行する。
- ・平成15年 新カリキュラム(新系列の実施)導入。

(7) 教育目標(同校学校要覧p.6より抜粋)

社会の進展や科学技術の進歩に対応するため、普通教育及び専門教育を総合的に施すことにより、社会の変化に対応して生涯学び続ける資質や能力を身につけさせ、自らの人生を豊かにし、社会の発展に貢献できる人間を育成する。

(8) 科目群について(平成18年度教育課程)

同校の科目群は次の4系列である。これは第二次学校改革で改められたものである。

**生物資源・環境科学系列**

**工学システム・情報科学系列**

**生活・人間科学系列**

**人文社会・コミュニケーション系列**

筑波大坂戸高校の教育課程表は巻末資料編(p.61)を参照のこと。

<参考・引用文献>

筑波大学附属坂戸高等学校編 平成 13 年『総合学科を創る - 生き生きと伸び伸びと学ぶ喜びを - 』学事出版。

筑波大学附属坂戸高等学校 平成 18 年「平成 18 年度学校要覧」筑波大学附属坂戸高等学校。

筑波大学附属坂戸高等学校 平成 18 年「筑波大学附属坂戸高等学校 School Guide 2006」筑波大学附属坂戸高等学校。

服部次郎 平成 16 年「本校総合学科におけるカリキュラムマネジメント」『月刊高校教育』8月号、第 37 巻第 12 号、pp.34 - 39。

## 2 各実践事例から見るカリキュラム・マネジメントのポイント

ここまで、第三部では神奈川県立高校三校と全国高校の事例三校、合計六校のカリキュラム・マネジメントによる学校改善の具体的実践事例を見てきました。事例にある学校概要等を読んでわかるように、実践事例としてここに挙げた各学校は、学校が立地する地域、生徒の学習、及び生活状況、学科等、多様であると言えます。しかし、各実践事例には、共通して見られる特徴もあります。この共通して見られる特徴は、何を意味するのでしょうか。各事例の中で見られたカリキュラム・マネジメント実施上の特徴というのは、私たちがカリキュラム・マネジメントを実施していく上で欠かすことのできないキーポイントであると考えることができます。本項では、各実践事例校のカリキュラム・マネジメントのポイントと考えられる特徴的事項について整理していくことにします。

### ポイント1 課題意識を常に持つことと課題への迅速な対応

実践事例の各高校がカリキュラム・マネジメントに取り組んだ直接のきっかけが多かったものは何でしょうか。それは、自校の教育活動に対する「課題意識」を持っていたということです。本ガイドブックにある実践事例では、大井高校、上溝南高校、相模大野高校、足立新田高校、関高校、筑波大坂戸高校のいずれの高校でも、カリキュラム・マネジメントの実践に当たって、自校の教育活動について課題意識を明確に持っていることが分かります。より適切に言えば、課題意識というよりも「危機意識」と言い換えた方が良いかもしれません。この課題意識（危機意識）が「学校を何とかしなければいけない」という教員の気持ちになっているのです。そして、自校の危機を乗り越えるにはどうしたら良いのか、課題意識を共有化して、教員組織一丸となって対応しているところに特徴があります。どの高校にも「必ず学校運営上の課題がある」と考えることがポイントです。

また、今まで、高校は小・中学校に比べて、校内の教員全員による校内研修の機会が少なかったということが出来ます。実践事例にある高校では、自校の課題に関する共通理解を深めたり、県外の学校を視察したりして、情報収集した管理職を始めとする教員から、視察先の事例を学ぶなどの校内研修会を行っています。このように教員の情報や課題を共有する機会を設ける工夫をすることが重要と言えます。校内研修においては、自己の教科に関わるカリキュラムの課題だけでなく、学校全体に関わるカリキュラムづくりについての論議（教育内容・方法と施設・設備、人事、財務等について）が求められるでしょう。

### ポイント2 カリキュラムの改編・再編

カリキュラム・マネジメントの実践では、自校のカリキュラムを各学校の現状を踏まえて分析・吟味し、各学校の教育目標を具現するためには、どのような点を改善していくかを考えることが大切です。単なる教科間の授業時間数合わせや前年度のカリキュラム表の数字を手直しするのでは、

カリキュラム・マネジメントを行っているとは言えません。

自校の生徒の学習状況、生徒指導上の状況等、実態を分析・吟味し、場合によっては、カリキュラムの大幅な見直しをすることも必要です。実践事例でいうと、足立新田高校の選択を多く取り入れた「学系カリキュラム」の採用、大井高校の福祉系科目の導入や「マトリックスカリキュラム」によるカリキュラム表の整理、上溝南高校の90分授業の導入などを挙げることができます。また、関高校の「関高学力スタンダード」のようなその学校の教職員が独自で開発した学習基準もあります。学習者のニーズに応えたカリキュラムの改編・再編を行わなければいけません。

### ポイント3 授業改善の取組

学校教育活動の取組で最も重要なことは、生徒に基本的学力を身に付けるということと言うまでもありません。そのためには、学校の授業を常に見直し、P-D-C-A(または、P-D-S)サイクルの中で改善していくことが大切です。現行の授業展開で本当に生徒は満足し、学力が身に付いているのか、検証し、改善すべき点は改善しなければなりません。上溝南高校や関高校の実践事例にあるように、学習主体者である生徒の意見を収集・分析し、取組についての検証を行い、授業改善の参考にすることが必要です。

神奈川県 の県立高校では「生徒による授業評価」が全校で行われています。生徒にもこの取組が「授業改善」のための取組であり、「生徒による授業評価」が、彼らのより充実した学びの基礎になるということを普段から十分に説明し、「評価のための評価」ではなく、充実した授業構築の材料になるのだということをお分かってもらうことが大切でしょう。学習者にも授業評価の意義を理解してもらい実施することが「生徒による授業評価」を活用して授業改善を行うポイントと言えます。

### ポイント4 スクールリーダーのリーダーシップの重要性

カリキュラム・マネジメントによって学校改善を行うには、校長、教頭、総括教諭などのスクールリーダーのリーダーシップが極めて重要であると言えます。学校内で大きな取組を行うには、誰かが呼び掛けをし、まとめなければなりません。そのためのきっかけをつくる上で、スクールリーダーのリーダーシップは重要です。ここでのスクールリーダーの大きな役割は、教職員全体の意識を共有化する取組のきっかけをつくるということです。そのために、例えば、企画会議で各グループに所属する教職員の学校運営に関する課題意識を十分に汲み上げ、校長が学校経営の方向性を提示することが重要です。スクールリーダーは、カリキュラム・マネジメント実践におけるキーパーソンであると言えます。

スクールリーダーのリーダーシップについては、本ガイドブックの実践事例の中では、筑波大坂戸高校の第二の学校改革の事例、相模大野高校の事例などに端的に現れていると言えます。

**ポイント5 地域との連携・開かれた学校づくり**

これから、より良い学校を作っていくには、学校の「ウチ」(教職員)だけで学校運営を行うという考え方は過去のものと言えるでしょう。新しい学校運営環境の下での、より良い学校づくり、学校改善には、地域の小・中学校、地域の方々等との協働が求められます。すなわち、学校の「ソト」(地域社会)との協働です。

本ガイドブックの実践事例では、大井高校、足立新田高校の地域との連携が挙げられます。これらの学校では、地域の方々力、あるいは施設設備を活用することを自校のカリキュラムづくりに取り入れています。各教科・科目の学習をはじめ、「総合的な学習の時間」の効果的な運営にも地域の方々との協働は重要です。

また、足立新田高校のように中学校訪問を繰り返し行うことで、中学校に自校の取組を十分理解してもらい、その結果志願者増に結び付けた取組もあります。充実した教育活動を行うには、地域の関係者との協働を今まで以上に充実したものに取る取組が求められます。

ここまでのカリキュラム・マネジメント実施上の特徴を表にまとめると次のようになります。

**表 - 2 カリキュラム・マネジメント実施の特徴一覧**

ポイント	紹介事例中、顕著な例として該当する実践事例対象校
1 課題意識の保持と迅速な対応	1大井、2上溝南、3相模大野、4足立新田、5関、6筑波大坂戸
2 カリキュラムの改編・再編	1大井、2上溝南、3相模大野、4足立新田、5関、6筑波大坂戸
3 授業改善の取組	1大井、2上溝南、4足立新田、5関
4 スクールリーダーのリーダーシップ	1大井、3相模大野、5関、6筑波大坂戸
5 地域との連携・開かれた学校づくり	1大井、4足立新田、5関

表中の実践事例校の順序は、実践事例の提示順である。また、校名の前の番号は実践事例の番号である。

**まとめ 高等学校でのカリキュラム・マネジメントのポイント**

本ガイドブックの理論編 13 ページでは、カリキュラム・マネジメント実践の留意点を挙げました。その要点と上述の実践事例校のカリキュラム・マネジメント取組のポイントを比較してみると、

実践事例校の取組は 13 ページのカリキュラム・マネジメント実施の留意点とおおむね対応関係にあることが分かります。

各高校がカリキュラム・マネジメントに取り組む方向性は、それぞれの学校の状況によって異なりますから、理論編にあるカリキュラム・マネジメントの考え方や、紹介した実践事例校の取組がすぐに各高校に当てはまるわけでないのは言うまでもありません。しかし、カリキュラム・マネジメントを行う目的は、あくまで「**各学校の教育目標を具現化する**」ために、「**各高校が学校改善を実践すること**」なのです。そして、教員が組織として一丸となって、生徒の状況（学習状況、生活状況）を踏まえた上で、カリキュラムの編成、実施、評価を行い、たとえ年度途中であっても改善点があれば、校長のリーダーシップの下に、改善すべき点を改善し、学校を更新することが重要と言えます。まさに機動力のある学校運営をすることです。校長をはじめとする教員は、自校の状況や課題を把握・分析し、カリキュラムを編制するという、カリキュラム・マネジメントの原則を踏まえた学校運営を行うことが大切です。学校運営には、教職員全員が関わっているということなのです。そして、学習主体である生徒のニーズを的確にとらえた学校運営を推進し、より良い学校づくりを行っていききたいものです。

効果的なカリキュラム・マネジメントの実践で、より良い学校づくりを目指し、県民のみなさんから信頼される高等学校づくりを共に目指しましょう。



## 2 大井高校グランドデザイン

# 大いなる挑戦 チャレンジ21

	誠実	努力	協調	練習	教養
求める生徒像	明るく誠実で責任を持とう	たえず努力をし前進しよう	協調性、社会性を養おう	健全な心身を練習し個性を伸ばそう	豊かな教養を身につけよう
目指す学校像	円満な人格の完成を目指し、豊かな情操と調和のとれた人間の育成 生徒一人ひとりを大切にし、明るく活力のある高校生活の実現を図るとともに、地域に根ざす学校づくりを目指します。				



地域

地域

カリキュラム

教育課程表

教育課程表

カリキュラム

地域

地域

一般的な教科・科目	確かな学力向上
わかりやすく、意欲が湧く授業の展開により、学力の向上を目指します。	
「学力の一層の向上」と「基礎学力の定着」という観点から、国語、数学、英語を基礎として「習熟度別クラス」をつくり、「確かな学力」の習得と将来の進路選択に備えています。また、外国語教育拠点校として外国人による英語の授業を行っています。	



「総合的な学習の時間」	進路探究学習・在り方生き方学習
進路指導の充実を目指します。	
自己の在り方生き方を探究し、自己の個性・適性にあった職業観を持った生徒の育成を目指します。	



多彩な選択教科・科目	生きる力の育成
福祉教育など選択科目の拡充を目指します。	
福祉科目では、福祉の心や知識を学び、車いすの使い方、手話、点字などの実習も行います。また、将来の進路に備え、技能審査（英語検定、漢字検定など）、ホームヘルパー2級の取得の支援を行います。	

点線内は次のページの教育課程表の配置と一致しています。



教科外活動	豊かな心の育成
部活動の活性化を目指します。	
バドミントン、野球、バスケットボール、卓球、陸上、サッカーなどの運動部はもちろん、演劇、吹奏楽、音楽などの文化部も熱心に活動しています。	



生活指導	豊かな心の育成
規律と良識ある生活習慣の確立を目指します。	
生徒一人ひとりを大切にし、明るく活力のある高校生活の実現を支援しています。薬物乱用防止講話や禁煙教育なども行います。	

(近隣特別養護老人ホームでの交流、地元養護学校での交流、小中学校との連携、幼稚園・保育園との連携、地元自治会の交流、養護施設での交流、学校内外の清掃活動ボランティアなど)

地域に開かれた学校づくりを目指します。

社会の一員であることを自覚し、地域に貢献できる生徒を目指します。



#### 4 上瀧南高校教育課程表

教科	科目	標準単位	1年	2年	3年				
					必修	必修選択A 5単位文選択	必修選択B 1科目選択	必修選択C 1科目選択	自由選択
国語	国語総合	4	4						
	現代文	4		3				3	
	古典講読	2		2 <small>2(選B、C)</small>					
	古典	4				5			
	日本文学	4		4(選A)					
	現代文特講	2							②
	古典特講	2							②
	漢文学	2							②
	現代文学読解	2							②
地理歴史	シナリオ入門	2							②
	評論文読解	2							②
	世界史B	4		3			5		
	日本史A	2		2 <small>2(選B、C)</small>					
	日本史B	4					5		
	地理A	2		2(選C)					
	地理B	4					5		
	世界史研究	2							②
	日本史研究	2							②
公民	地理研究	2							②
	現代社会	2	3						
	政治・経済	2			2				
	政治・経済研究	2							②
数学	時事研究	2		2(選C)					
	数学I	3	3						
	数学II	4		4(選A)					
	数学III	3				5			
	数学A	2	2						
	数学B	2		3(選B)					②
	数学C	2							②
	数学I A	2		2(選C)					②
理科	数学研究	5				5			
	数学II B	2							②
	数学総合	3						3	
	理科総合B	2	2						
	物理I	3		3(選B)					
	物理II	3				5	3		
	化学I	3	3						
	化学II	3				5	3		
生物I	3		3(選B)						
保健体育	生物II	3				5	3		
	地理I	3		2(選C)					
	物理研究	2							②
	化学研究	2							②
	生物研究	2							②
	体育(選択)	2		2(選C)	2				
	保健	2	1	1					
	音楽I	2	2	2(選C)					
芸術	音楽II	2		2(選C)					
	音楽III	2							②
	音楽一般	2				2			
	美術I	2	2	2(選C)					
	美術II	2		2(選C)					
	美術III	2							②
外国語	色彩研究	2				2			
	英語I	3	5						
	英語II	4		4					
	リーディング	4			4				
	ライティング	4		2	2				
	英語総合	3				3			
	基礎英語	2							②
	発展英語	2							②
家庭	ハンガール初級	2							②
	家庭総合	4	2	2					
	フードデザイン	2				2			
	発達と保育	2							②
情報	情報A	2	2						
総合	かみなん i-study	3	1	1	1				
小計			33	33	11	5	5	3	0~8
ホームルーム		1	1	1	1				
合計		34	34	34				25~33	

※備考・必修選択科目のうち、J印はいずれか1科目を選択する。  
 ・2年次の必修選択は、選択Aより1科目、選択Bより2科目、選択Cより2科目を選択する。

## 5 相模大野高校教育課程表

入学年度		平成18年度									
小学科又は類型		普通科									
教科	科目	標準単位	1年		2年			3年			小計
			必修	選択	標準型	理系型	選択	文系型	理系型	選択	
国語	国語表現Ⅰ	2								2	10~21
	国語表現Ⅱ	2									
	国語総合	4	4								
	現代文	4			2	2		2	2		
	古典	4						3			
	古典講読	2			2	2					
	現代文研究									2	
地理歴史	世界史A	2	2							2	4~16
	世界史B	4						4			
	日本史A	2		2	2						
	日本史B	4						4			
	地理A	2			2	2					
	地理B	4						4			
	世界史研究									2	
公民	現代社会	2	2								2~8
	倫理	2								2	
	政治・経済	2						2			
	政治・経済研究	2								2	
数学	数学基礎	2									9~22
	数学Ⅰ	3	3								
	数学Ⅱ	4		4	4						
	数学Ⅲ	3							4		
	数学A	2	2							2	
	数学B	2			2					2	
	数学C	2								2	
理科	理科基礎	2									7~24
	理科総合A	2							2		
	理科総合B	2		2						2	
	物理Ⅰ	3			2					2	
	物理Ⅱ	3						3		2	
	化学Ⅰ	3			2	2				2	
	化学Ⅱ	3						3		3	
	生物Ⅰ	3	3							3	
	生物Ⅱ	3						3		3	
	地学Ⅰ	3								2	
保健体育	生物研究									2	10
	体育	7~8	3		3	3		2	2		
芸術	保健	2	1		1	1					4~12
	音楽Ⅰ	2	2							2	
	音楽Ⅱ	2			2	2					
	音楽Ⅲ	2								2	
	美術Ⅰ	2	2							2	
	美術Ⅱ	2			2	2					
	美術Ⅲ	2								2	
	工芸Ⅰ	2								2	
	工芸Ⅱ	2									
	工芸Ⅲ	2								2	
外国語	書道Ⅰ	2								2	15~21
	書道Ⅱ	2									
	書道Ⅲ	2								2	
	オール・コミュニケーションⅠ	2	2								
	オール・コミュニケーションⅡ	4									
	英語Ⅰ	3	3								
	英語Ⅱ	4		5	5			5	5		
ライティング	4										
家庭	コミュニケーションスキルズ									2	0~4
	英語研究A									2	
	英語研究B									2	
	家庭基礎	2									
情報	家庭生活	4	2		2	2					4
	生活技術	4									
	情報A	2									
家庭	情報B	2	1		1	1					2
	情報C	2									
家庭	フードデザイン	2								2	0~4
	発達と保育	2								2	
学校外活動	スポーツⅡ	2								2	0~2
	ボランティア活動			1						1	
総合的な学習	校外講座			1						1	0~3
	ボランティア活動			1						1	
ホームルーム活動	総合的な学習	3~6	1		1	1		1	1	1	3
	計		31	0~2	31	1		19	19	2~14	
備考	ホームルーム活動			1		1			1		3
	計			32~34		32~34			22~34		
備考		□印は、その中から1科目を選択する。									

## 6 足立新田高校教育課程表

	1年	2年	3年
1			
2			
3	国語総合	現代文	現代文
4			
5		世界史A	日本史A
6			
7	地理A	倫理	政治・経済
8			
9	数学	数学A	生物
10			
11		化学	体育
12	理科基礎		
13			
14	物理	体育	リーディング
15			
16		保健	
17	体育	芸術	家庭総合
18			
19	保健		
20	芸術	英語	学系科目
21			
22		家庭総合	
23	英語		
24			
25		学系科目	自由選択
26	情報A		
27			
28	総合の時間		総合の時間
29			
30	LHR	LHR	LHR

2年 学系科目群		
スポーツ健康系	福祉科目系	情報ビジネス系
トレーニングA	福祉基礎	パソコン実習A
生涯スポーツA(ゴルフ)	高齢化社会と人間	パソコン実習B
生涯スポーツA(屋内競技)	保育実践A	ワープロ検定A
生涯スポーツA(屋外競技)	保育音楽A	比較文化
陸上競技	児童文学	時事問題
現代社会とスポーツ	暮らしと科学	国語演習(進学)
国語演習(進学)	時事問題	古典基礎
古典基礎	国語演習(進学)	数学
数学	古典基礎	数学B
数学B	数学	実用数学(看護)
実用数学(看護)	数学B	英語長文読解演習A
環境学	実用数学(看護)	英文法演習A
英語長文読解演習A	環境学	
英文法演習A	英語長文読解演習A	
ワープロ検定B	英文法演習A	
	ワープロ検定B	

3年 学系科目群		
スポーツ健康系	福祉科目系	情報ビジネス系
トレーニングB	福祉実践	パソコン実践
生涯スポーツB(ゴルフ)	福祉ボランティア論	パソコン検定A
生涯スポーツB(屋内競技)	生命倫理	マルチメディア
生涯スポーツB(屋外競技)	保育実践B	観光地理
レクリエーション	保育音楽B	生活文化
現代社会とスポーツ	児童文学	現代用語演習
比較文化	レクリエーション	観る古典
現代用語演習	現代用語演習	観る日本史
観る古典	古典芸術鑑賞	数学(看護)
数学(看護)	観る古典	数学
数学	観る日本史	推論・数値処理
化学(進学)	数学(看護)	化学(進学)
生物(進学)	数学	生物(進学)
英語長文読解演習B	推論・数値処理	英語長文読解演習B
英文法演習B	化学(進学)	英文法演習B
	生物(進学)	
	応用英語演習B(看護)	
	英語長文読解演習B	
	英文法演習B	

3年 自由選択科目群	
数学演習	世界史演習(進学)
物理(進学)	日本史演習(進学)
応用英語演習A(進学)	政治・経済演習(進学)
食と生活	数学C
パソコン検定B	体育演習(進学)
コンピュータミュージック	美術
小論文演習	

## 7 関高校教育課程表

教科	科目	標準 単位	1年	2年		3年		教科の備考	
				文	理	文	理		
国語	国語表現Ⅰ	2				③			
	国語表現Ⅱ	2							
	国語総合	4	6				5△		
	現代文	4		2	2	3	2		
	古典講読	4		2	2	3	2		
地理 歴史	古典講読	2		1	1	②			
	世界史A	2					②	理系については、2年次と3年次のいずれかで必ず世界史を選択する。	
	世界史B	4		3	③	3	①		
	日本史A	2							①
	日本史B	4		③	③	③			①
地理A	2					②			
公民	地理B	4		③	③	③	①		
	現代社会	2	2						
	倫理	2							
数学	政治・経済	2				2			
	数学基礎	2							
	数学Ⅰ	3	3			③			
	数学Ⅱ	4		4	4				
	数学Ⅲ	3					5△	4	
	数学A	2	3						
理科	数学B	2		2	2	②			
	数学C	2					3		
	理科基礎	2						理系の生徒で、3年次に物理Ⅰ・化学Ⅰ・生物Ⅰ・地学Ⅰを選択する場合は、2年次に選択しなかった科目を選択する。	
	理科総合A	2	3						
	理科総合B	2							
	物理Ⅰ	3		③	③	③▲	②又は0		
	物理Ⅱ	3					④		
	化学Ⅰ	3		③	③	③▲	②又は0		
	化学Ⅱ	3					④		
生物Ⅰ	3		③	③	③▲	②又は0			
生物Ⅱ	3					④			
地学Ⅰ	3					②又は0			
保健 体育	地学Ⅱ	3							
	体育	7~8	3	2	2	3	3		
芸術	保健	2	1	1	1				
	音楽Ⅰ	2	②						
	美術Ⅰ	2	②						
外国語	書道Ⅰ	2	②						
	オーラルコミュニケーションⅠ	2	3						
	オーラルコミュニケーションⅡ	4				③▲			
	英語Ⅰ	3	3						
	英語Ⅱ	4		4	4				
	リーディング	4				4	4		
家庭	ライティング	4		2	2	2	2		
	中国語特講	2	1☆	1☆	1☆	1☆	1☆		
	家庭基礎	2		2	2				
情報	家庭総合	4							
	情報A	2							
	情報B	2	2						
学校設定科目	情報C	2							
	医学概論	1	1☆	1☆	1☆	1☆	1☆		
総合的な学習の時間		1	1	1	1	1			
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	1	1		
合計			33~34	33~34	33~34	33~34	33~36		
備考			②より1つ選択	③より、地歴と理をそれぞれ1つずつ選択	③より、地歴と理をそれぞれ1つずつ選択	③より、地歴と理をそれぞれ1つずつ選択	③より、地歴と理をそれぞれ1つずつ選択	各学年とも☆から1または0選択(高大連携により学修)	

8 「関高学カスタンダード 数学」1級

第1章 整数問題

<ポイント>  $( )^2 + ( )^2 + ( )^2 = \text{整数}$  となるように変形する。

<例題1-3-②>

等式  $3x^2 + y^2 + 5z^2 - 2yz - 12 = 0$  を満たす整数の組  $(x, y, z)$  をすべて求めよ。

解説

$$3x^2 + (y-z)^2 + 4z^2 = 12$$

$x, y, z$  は実数であるから  $3x^2 \leq 12, 4z^2 \leq 12$

すなわち  $x^2 \leq 4, z^2 \leq 3$

$x, z$  は整数であるから  $x=0, \pm 1, \pm 2; z=0, \pm 1$

$x=0$  のとき,  $z=0, \pm 1$  は不適。

$x=\pm 1$  のとき,  $z=0$  ならば  $y^2=9$  で,  $y=\pm 3$

$z=\pm 1$  は不適。

$x=\pm 2$  のとき,  $z=0$  ならば  $y=0$

$z=\pm 1$  は不適。

よって  $(x, y, z) = (\pm 1, 3, 0), (\pm 1, -3, 0), (\pm 2, 0, 0)$

<ポイント>  $x < y < z$  の逆数をとると  $\frac{1}{x} > \frac{1}{y} > \frac{1}{z}$  より, これを用い1つの変数の不等式を導く。

<例題1-3-③>

$x, y, z$  は自然数で,  $x < y < z$  とするとき,  $\frac{1}{x} + \frac{1}{y} + \frac{1}{z} = 1$  を満たす  $x, y, z$  の値を求めよ。

解説

$$\frac{1}{z} < \frac{1}{y} < \frac{1}{x} \text{ から } \frac{1}{x} + \frac{1}{y} + \frac{1}{z} < \frac{3}{x}$$

よって  $1 < \frac{3}{x}$  ゆえに  $x < 3$

[1]  $x=1$  のとき

$\frac{1}{y} + \frac{1}{z} = 0$  となり,  $y, z$  が自然数であることを満たさないから不適。

[2]  $x=2$  のとき

$$\frac{1}{y} + \frac{1}{z} = \frac{1}{2} \text{ となる. また } \frac{1}{y} + \frac{1}{z} < \frac{2}{y}$$

よって  $\frac{1}{2} < \frac{2}{y}$  ゆえに  $y < 4$

したがって  $y=3$

また  $\frac{1}{z} = \frac{1}{2} - \frac{1}{y} = \frac{1}{2} - \frac{1}{3} = \frac{1}{6}$  よって  $z=6$  これは  $y < z$  を満たす。

以上から  $x=2, y=3, z=6$

## 9 「関高学カスタンダード 英語」2級

### スタンダード 英作文 編

#### 文型

- |                         |   |                                   |
|-------------------------|---|-----------------------------------|
| 1 彼は来るだろうか。             | I wonder if he will come.   | (if ~かどうか)                        |
| 2 ドアは閉じられたままだった。        | The door remained <u>closed</u> .                                     |                                   |
| 3 ドアを開けっ放しにしておくな。       | Don't leave the door open.  | (openは形容詞。You make me happyと同じ語類) |
| 4 私たちは彼は無罪だと信じている。      | We think him (to be) innocent. (= We think that he is innocent.)      |                                   |
| 5 そのうわさは本当だとわかった。       | We found the rumor true.  |                                   |
|                         | (prove「～だと証明される」「～だと明らかになる」) = The rumor proved (to be) true.         |                                   |
| 6 彼女は私に何枚CDを持っているかと尋ねた。 | She asked me <u>how many CDs</u> I had.                               |                                   |
| 7 私は彼にどんな本を読むべきかをたずねた。  | I asked him <u>what book</u> to read. (= ~what book I should read)    |                                   |
| 8 彼女はどんな本が好きだと思いますか。    | <u>What book</u> do you think <u>she likes</u> ? (Do you ~から書き始めないこと) |                                   |
| cf. 彼女がどんな本が好きか知っていますか。 | Do you know <u>what book she likes</u> ?                              |                                   |

「彼はどんな人か」 what + he is like. 「彼が何歳か」 how old + he is 「彼が水をどれだけ飲んだか」 how much water + he drank. も同様。語順注意

#### 不定詞 (to do)

- |                           |   |  |
|---------------------------|---|--|
| 9 彼がこの問題を解決することは不可能だ。     | It is impossible <u>for him</u> to solve this problem.  |  |
| 10 手伝っていただきましてすみません。      | It is <u>kind of you</u> to help me. (= You are kind to help me.)   |  |
| 11 彼は気難しい。                | He is hard to please. (= It is hard to please him.)   |  |
| 12 彼がそう言うのも当然だ。           | It is natural that he should say so. (should「当然～はずだ」)   |  |
| 13 彼が来るかどうか疑わしい。          | It is doubtful whether he will come.  |  |
| 14 彼が少ない給料で生活するのは難しいと思う。  | I think it difficult <u>for him</u> to live on his small salary.  |  |
| 15 私は彼女が学校を休んだのは変だと思う。    | I think it strange that she was absent from school.   |  |
| 16 彼は無罪だと思われる。            | It seems that he is innocent. (It is seemed that～としないこと)<br>= He seems to be innocent.  |  |
| 17 彼はニューヨークに住んでいたようだ。     | It seems that he <u>lived</u> in New York.<br>= He seems to <u>have lived</u> in New York.  |  |
| 18 彼は彼女と結婚したそうだ。          | They say that he <u>got married</u> to her.<br>= It <u>is</u> said that he <u>got</u> married to her.<br>= He <u>is</u> said to <u>have got</u> married to her. |  |
| 19 この本を読むのにどれ程時間がかかりましたか。 | How long did it take you to read this book?   |  |
| 20 この車を修理してもらうのに1万円かった。   | It cost me 10,000 yen to have this car repaired.  |  |
| 21 何か冷たい飲み物をください。         | Give me <u>something cold to drink</u> .  |  |

cf. 住む家 a house to live in 書く用具 something to write with

# 10 筑波大坂戸高校教育課程表

平成18年度入学生 総合科学科教育課程表

1 年 次				2 年 次				3 年 次				
教科	科目	単位		教科	科目	単位		教科	科目	単位		
必 履 修 科 目	国 語	国語総合	4	必 履 修 科 目	地 歴	世界史 A	2	必 履 修 科 目	保健	体育	2	
	地 歴	地 理 A	2		公 民	現 代 社 会	2		科目	体育	保健	1
	数 学	数 学 I	4		理 科	理 科	理科総合A	1科目	3年次必履修科目単位数計		3	
	理 科	物理 I α	1科目 選択				理科総合B	2	3年次選択科目単位数計		26	
		化学 I α			保 健 体 育	体 育	2					
		生物 I α				保 健	1					
	保健体育	体 育	3		学校指 定必履 修科目	外国語	英 語 II	5				
	外国語	英 語 I	5		産 業	起 業 基 礎	2					
	家庭	家庭基礎	2		2年次必履修科目単位数計		9					
	情報	情報 C	2		2年次学校指定必履修科目単位数計		7					
	芸 術	音楽 I	1科目 選択		2年次選択科目単位数計		14					
		美術 I										
学校指 定必履 修科目	産 業	産業社会と人間			2							
		産業理解			2							
1年次必履修科目単位数計					26							
1年次学校指定必履修科目単位数計					4							

※「産業社会と人間」「産業理解」は、時間割内各1.5単位、長期休業中各0.5単位

系列必修・選択科目群			
	系列必修科目	系列選択科目	自由選択科目
生物資源・ 環境科学 系列	化学 I β(2) 化学 II (2) 生物 I β(2) 生物 II (2) 生物資源実習 I (2) 農と暮らし(2) 卒業研究(2)	農から見た環境科学(2) 環境創造(2) 農業研究(2) 農業実験(2) 食と農の科学(4) 地球と環境(2) 生活と環境(2) 農を読む(2) ガーデニング(2) 生物資源実習 II (2)	日本語表現(2) 表現演習(2) 古典講読(2) 言語コミュニケーション(2) 日本史B(4) 世界の思想(2) 地理B(4) 世界史B(4) 現代の政治経済(2) 日本史A (2)
工学システム・ 情報科学 系列	数学 II (4) 物理 II (2) 工学情報基礎(2) 工学情報実習(4) 卒業研究(2)	物理 I β(2) 数学B(2) 数学C(2) 産業電子技術(2) 機械設計(2) プログラミング技術A(2) プログラミング技術B(2) ハードウェア技術(2) IT技術基礎(2) 原動機(2) シミュレーション技術(2)	数学 II (4) 数学 III (4) 数学 A(2) 数学基礎(2) 数学演習(2) 化学 I β(2) 化学 II (2) 生物 II (2) スポーツ II (2) オーラル I (2) リーディング(4) ライティング(2) マルチメディア(2)
生活・ 人間科学 系列	現代文 I (2) 現代文 II (2) 生活科学(2) 人間科学(2) 社会福祉援助技術(2) 卒業研究(2)	フードデザイン I (4) フードデザイン II (4) アパレル技術 I (4) アパレル技術 II (4) 発達と保育(2) 福祉基礎(2) パフォーマンス・コミュニケーション(2) 児童文化(2) クッキングデザイン(2) 服飾文化(2) 社会福祉実習(2) 社会福祉演習(2) 介護理解(2) 役立つ統計(2)	音楽 II (2) 美術 II (2) 生物活用技術(2) 植物生態学(2) 動物生態学(2) 地球と環境(2) 製図(2) 産業電子機械(2) 基礎介護(2) 比較文化論(2) ビジネス・スキル(2) 簿記入門(4) 販売実践(4) 商業デザイン(2)
人文社会・ コミュニケーション 系列	Communicative Writing I (2) Practical Reading (4) ワールド・ビジネス (2) 卒業研究(2)	現代文 I (2) 現代文 II (2) 現代評論(2) 古典 I (2) 古典 II (2) 古典基礎(2) 数学 A(2) Communicative Writing II (2) Advanced English(2) 簿記(4) 商品と流通(2) 原価計算(2) 会計(4) 商学研究(2) マーケティング・コミュニケーション(2)	やさしい法律(2) <時間割外科目1> 野外活動・水泳(1) 野外活動・スキー(1) 農場基礎実践(2) 農場実践(2) 総合農場実習(2) 地球環境科学(2)  <時間割外科目2> (就業体験) 技能審査(※該当資格取得者対象)

最大履修可能教科・科目単位数  
**89単位**  
卒業認定に必要な教科・科目の単位数  
**80単位以上**

1 年 次		2 年 次		3 年 次	
教科・科目履修単位数計	30	教科・科目履修単位数計	30	教科・科目履修単位数計	29
特別活動	1	特別活動	1	特別活動	1
総合的な学習の時間(研究基礎)	1	総合的な学習の時間(研究実践)	1	総合的な学習の時間(研究表現)	1
1年次総履修単位数	32	2年次総履修単位数	32	3年次総履修単位数	31

その他の学習活動

1. アカデミア 各年次(隔月土曜日3週連続)
2. アシスト7 1年次:基礎力向上(月・金曜日7限) 2年次:進路研究(金曜日7限) 3年次:進路研究(月・火曜日7限)
3. 東京工業大学による衛星配信授業

## 参考・引用文献等一覧

- 安彦忠彦 平成 14 年『教育課程編成論 - 学校で何を学ぶか』放送大学教育振興会
- 安彦・新井他編 平成 14 年『現代学校教育大事典』ぎょうせい
- 神奈川県立大井高等学校 平成 17 年「フロンティアハイスクール研究紀要」
- 神奈川県立大井高等学校 平成 18 年「学校要覧」
- 神奈川県立大井高等学校公式ホームページ
- 神奈川県立上溝南高等学校 平成 18 年「学校案内」
- 神奈川県立上溝南高等学校 平成 18 年「学校要覧」
- 神奈川県立相模大野高等学校 平成 18 年「学校案内」
- 神奈川県立相模大野高等学校 平成 18 年「学校要覧」
- 神奈川県教育委員会 平成 17 年「新たな学校運営組織・教員の新たな職について」
- 岐阜県立関高等学校 平成 18 年「学力向上フロンティアハイスクール事業研究報告書」
- 岐阜県立関高等学校 平成 18 年「学校案内」
- 岐阜県立関高等学校 平成 18 年「学校要覧」
- 小泉祥一 平成 14 年「教育課程経営」安彦、新井他編『現代学校教育大事典』ぎょうせい、p.  
白石・杉原・葉養・若井編 平成 18 年『必携学校小六法』協同出版
- 鈴木高広 平成 16 年『熱血！ジャージ校長奮闘記』小学館
- 田中統治 平成 13 年「特色あるカリキュラムマネジメントの展開」児島・天笠編『柔軟なカリ  
キュラムの経営 - 学校の創意工夫』ぎょうせい、
- 田中統治編著 平成 17 年『確かな学力を育てるカリキュラム・マネジメント』教育開発研究所
- 筑波大学坂戸高等学校編 平成 13 年『総合学科を創る - 生き生きと学ぶ喜びを - 』学事出版
- 筑波大学附属坂戸高等学校 平成 18 年「筑波大学附属坂戸高等学校 School Guide 2006」
- 筑波大学附属坂戸高等学校 平成 18 年「平成 18 年度学校要覧」
- 東京都立足立新田高等学校 平成 18 年「足立新田の学校改革」第 6 版、平成 18 年 5 月追記
- 東京都立足立新田高等学校 平成 18 年「学校案内」
- 東京都立足立新田高等学校 平成 18 年「学校要覧」
- 中留武昭・田村知子 平成 16 年『カリキュラムマネジメントが学校を変える』学事出版
- 中留武昭編著 平成 17 年『カリキュラムマネジメントの定着過程』教育開発研究所
- 西穰司 平成 8 年「教育課程経営の課題と展望」北海道立教育研究所『北海道教育』pp.38 - 43
- 服部次郎 平成 16 年「本校総合学科におけるカリキュラムマネジメント」『月刊高校教育』8 月  
号、第 37 巻第 12 号、学事出版、pp.34 - 39
- 読売新聞平成 18 年 6 月 6 日（朝刊）「中退激減 - 都立足立新田高『熱意の指導』で改革 奏功」  
「教育ルネサンス」

『高等学校のためのカリキュラム・マネジメントによる学校改善ガイドブック』の  
作成関係者

< 助言者 >

所 属	職 名	氏 名	備 考
玉川大学	助教授	坂野 慎二	平成 18 年度

< 調査研究協力員 >

所 属	職 名	氏 名	備 考
神奈川県立上溝南高等学校	総括教諭	大橋 和弘	平成 18 年度
神奈川県立外語短期大学附属高等学校	教諭	大野 泰孝	平成 18 年度
神奈川県立相模大野高等学校	教諭	熊田 一彦	平成 18 年度
神奈川県立大井高等学校	教諭	七海 勝浩	平成 18 年度

< 神奈川県立総合教育センター >

所 属	職 名	氏 名	備 考
カリキュラム支援課	研修指導主事	阿部 一也	
カリキュラム支援課	研修指導主事	竹久保 明弘	



高等学校のためのカリキュラム・マネジメントによる学校改善ガイドブック

発行 平成 19 年 3 月

発行者 田邊 克彦

発行所 神奈川県立総合教育センター

〒251-0871 藤沢市善行 7 - 1 - 1

電話 (0466)81-1659 (カリキュラム支援課 直通)

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>





古紙配合率100%再生紙を使用しています



**神奈川県立総合教育センター  
カリキュラムセンター（善行庁舎）**

〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1

TEL (0466)81-0188

FAX (0466)84-2040

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

**教育相談センター（亀井野庁舎）**

〒252-0813 藤沢市亀井野 2547-4

TEL (0466)81-8521

FAX (0466)83-4500